

暫 定 版

※確定版の会議録ではありません。今後修正される可能性がありますので、御注意ください。

決算審査特別委員会都市建設分科会記録

日	令和7年9月24日（水）（第3回定例会）			
時	休 憩 午前10時0分 開議（午後0時4分～午後1時0分） 午後1時41分 散会			
場 所	第5委員会室			
出席委員	段 木 和 彦	岳 田 雄 亮	大 平 真 弘	伊 藤 康 平
	亀 井 琢 磨	川 合 隆 史	佐々木 友 樹	小松崎 文 嘉
	向 後 保 雄			
欠席委員	守 屋 聡			
担当書記	岡 田 昌 樹 鈴 木 拓 哉			
説 明 員	建設局			
	建設局長	山口 浩正	建設局次長（水道局長併任）	山田 裕之
	土木部長	長瀬 正一	道路部長	日暮 秀訓
	下水道企画部長	中臺 英世	下水道施設部長	高梨 雅和
	建設総務課長	松永 信隆	土木管理課長	柳澤 秀諭
	土木保全課長	石黒 栄	技術管理課長	谷口 誠太郎
	工事検査室長	角田 英樹	路政課長	塚越 剛
	中央・美浜土木事務所長	佐瀬 一幸	花見川・稲毛土木事務所長	遠藤 政行
	若葉土木事務所長	松川 健一郎	緑土木事務所長	葛岡 康弘
	道路計画課長	小池 雄一	広域道路政策室長	中本 敦
	道路建設課長	林 忠昭	街路建設課長	保科 昭久
	自転車政策課長	小山 憲一	下水道経営課長	吉井 信
	下水道経理課長（水道総務課料金担当課長併任）	海保 利枝	下水道営業課長	林 茂樹
	総合治水課長	森 春仁	下水道整備課長	鈴木 宏一
	污水対策担当課長	森山 茂信	雨水対策課長	根木 義治
	下水道維持課長	松田 和之	下水道施設建設課長	石黒 平樹利
	中央浄化センター所長	森田 祐介	南部浄化センター所長	久野 正義
	総括主幹	坂村 公章		
	水道局			
	水道局次長	神田 稔	水道総務課長	布施 善幸
	水道事業事務所長	塩見 章	水道総務課長補佐	山田 香織
	水道事業事務所長補佐	宮本 太郎		
審査案件	令和6年度決算			

暫 定 版

※確定版の会議録ではありません。今後修正される可能性がありますので、御注意ください。

	建設局所管、水道局所管
協議案件	指摘要望事項の協議
そ の 他	
委 員 長 段 木 和 彦	

午前10時0分開議

○委員長（段木和彦君） おはようございます。ただいまから決算審査特別委員会都市建設分科会を開きます。

なお、守屋委員より欠席する旨の連絡が参っておりますので、御了承願います。

本日の審査日程につきましては、まず建設局及び水道局所管の審査を行った後、指摘要望事項の協議をお願いいたします。

建設局所管審査

○委員長（段木和彦君） 建設局所管の令和6年度決算議案の審査を行います。

委員の皆様は、サイドブックスのしおり1番、主要施策の成果説明書をお開きください。

それでは、当局の説明をお願いいたします。建設局長。

○建設局長 おはようございます。建設局でございます。よろしくお願いいたします。

座って説明させていただきます。

それでは、建設局の一般会計の歳入歳出決算額の状況について御説明いたします。

なお、下水道事業会計及び農業集落排水事業会計の決算の状況につきましては、既に9月17日の総括説明にて御説明しておりますので省略させていただきます。

初めに、歳入について、お手元の主要施策の成果説明書217ページから220ページで説明いたします。なお、各表の金額は円単位となっておりますが、1,000円未満を切り捨てて説明いたします。

219ページ及び220ページをお願いいたします。

歳入の総額は、歳入の表の一番下でございます計の欄、予算現額277億205万9,000円に対し、調定額166億2,205万1,000円、収入済額166億2,004万2,000円となっております。なお、予算現額に対する収入済額が約110億円の減となっておりますが、こちらは、主に翌年度への事業繰越しと国の内示減及び事業量減等に伴う国庫支出金及び市債の減でございます。

次に、歳入の主な内容を説明いたします。

恐れ入りますが、217ページ及び218ページにお戻りください。

款18・使用料及び手数料ですが、収入済額14億8,716万2,000円となっております。主なものといたしましては、備考欄に記載の道路橋梁使用料8億7,524万9,000円で、こちらは、ガス管などの地下埋設管や電柱などの道路占有料でございます。

次に、款19・国庫支出金ですが、収入済額29億4,385万4,000円となっております。主なものといたしましては、備考欄に記載の道路事業費収入6億3,782万7,000円、街路事業費収入15億1,403万6,000円などでございます。

119ページ及び220ページをお願いいたします。

次に、款26・市債ですが、収入済額111億7,600万円となっております。主なものといたしましては、備考欄に記載の道路新設改良債51億1,800万円、橋梁新設改良債21億2,300万円でございます。

続きまして、歳出について説明いたします。

歳出の総額は、歳出の表の一番下にございます計の欄、予算現額425億6,762万2,000円に対し、支出済額319億5,229万8,000円、執行率は75.1%でございます。なお、翌年度繰越額は79億8,370万8,000円となっております。

次に、歳出の主な内容について説明いたします。

最初に、款4・衛生費ですが、予算現額17億168万1,000円に対し、支出済額16億4,223万4,000円となっております。こちらは、水道事業会計に対する繰出金でございます。

次に、款6・農林水産業費ですが、予算現額4億7,531万6,000円に対し、支出済額4億5,314万3,000円となっております。こちらは、農業集落排水事業会計に対する繰出金でございます。

次に、款8・土木費ですが、予算現額403億9,062万5,000円に対し、支出済額298億5,692万円、翌年度繰越額は79億8,370万8,000円となっております。

土木費の主な内容といたしまして、項2・道路橋梁費、目2・道路維持費の支出済額46億2,990万円は、道路の補修や清掃及び自転車駐車場の管理業務などを行ったものでございます。目3・道路新設改良費は、支出済額51億8,474万3,000円は、道路の舗装や側溝の新設改良などを行ったものでございます。

次に、項5・都市計画費目1都市計画総務費の支出済額90億1,875万4,000円は、下水道事業会計への負担金の支出などを行ったものでございます。

なお、土木費における不用額は、25億4,999万6,000円となっております。その主なものは、項2・道路橋梁費の15億7,119万1,000円で、こちらは、道路新設改良事業における国の内示減による国庫補助金の減などによるものでございます。

以上が建設局に係る歳入歳出決算額の状況でございます。

それでは、主な施策の概要及び成果は、各部長から御説明いたします。

○委員長（段木和彦君） 土木部長。

○土木部長 土木部の長瀬です。よろしくお願いいたします。

土木部の主な施策の概要及び成果について説明させていただきます。座って説明させていただきます。

主要施策の成果説明書の221ページをお願いいたします。

事務事業名1の舗装新設は、市道6路線で延長581メートルの整備を行ったものでございます。

2の舗装改良は、国道1路線で2,270メートル、県道19路線で5,253メートル、市道155路線で2万121メートルの整備を行ったものでございます。

3の側溝新設は、市道5路線で316メートルの整備を行ったものでございます。

4の側溝改良は、県道1路線で259メートル、市道35路線で3,736メートルの整備を行ったものでございます。

5の私道整備助成は、5件の助成を行ったものでございます。

6の狭あい道路拡幅整備は、測量を19件行ったものでございます。

次に、222ページをお願いいたします。

7の電線共同溝整備は、県道千葉大網線で引込連携を、市道若葉5号線ほかで本体工事200メートルと引込連携を行ったものでございます。

8の交通安全施設等整備は、1の安全施設等整備で県道千葉大網線、市道瑞穂1号線ほかにおいて、歩道の整備、段差解消、道路照明等及び区画線の設置などを行ったものでございます。次に、223ページをお願いいたします。

9の橋梁の整備は、1の橋梁耐震化強化で市道の鉄砲塚跨線橋の橋脚補強を行ったものでございます。2の橋梁長寿命化で、国道の本町歩道橋のほか、県道、市道の橋梁で塗り替え塗装などを行ったものでございます。

10の都市モノレールインフラの維持管理は、1の都市モノレールインフラ施設の設備更新等で、桁や支柱の塗り替え塗装や駅舎の屋根補修などを行ったものでございます。2の千葉都市モノレールの施設の維持管理に関する協定書に基づく負担金は、千葉都市モノレール株式会社が行った維持管理費用の負担金でございます。

次に、224ページをお願いいたします。

11の橋梁架替は、県道穴川天戸線の亥鼻橋で橋梁下部工を、市道三角町柏井町線の柏井橋で家屋事後調査などを行ったものでございます。

12の地籍調査は、事前調査として現況測量を行ったものです。

13の道路台帳整備は、新認定及び区域変更などに伴う台帳の修正を行ったほか、道路境界確定情報のデータ化などを行ったものでございます。

以上が、土木部の主な施策の概要及び成果でございます。

○委員長（段木和彦君） 道路部長。

○道路部長 道路部、日暮でございます。おはようございます。座って説明させていただきます。

道路部所管について説明させていただきます。

225ページをお願いいたします。

事務事業名1、道路新設改良ですが、1の幹線道路の整備では、土気町17号線ほか7路線で、2の企業立地促進関連道路の整備では、東寺山町山王町線ほか2路線、3の生活道路の整備では、長沼原町55号線ほか24路線で、それぞれ改良工事や用地取得、さらには詳細設計などを行ったものでございます。4のインターチェンジの整備では、（仮称）検見川・真砂スマートインターチェンジの調査、設計を、5の道路計画調査では、交通量調査などを行ったものでございます。

次に、226ページをお願いいたします。

2の道路直轄事業負担金ですが、国道357号、湾岸千葉地区改良ほか、国が行った改築などに関する費用の一部を地方財政法に基づきまして負担したものです。

3の交通安全施設等整備ですが、1の交差点の改良では、四街道入口交差点ほか15交差点で改良工事や用地取得、2の歩道の整備では、千葉川上八街線ほか25路線で歩道整備工事や用地取得などを、3の踏切道の改良では、中広踏切で歩道整備工事を行ったものでございます。

次に、227ページをお願いいたします。

4の街路整備ですが、1の主要幹線街路の整備では、塩田町菅田町線ほか6路線で橋梁下部工工事や用地取得などを、2の幹線街路の整備では、次のページに記載を含めまして、幕張本郷松波線ほか9路線で用地取得などを行ったものでございます。

228ページをお願いいたします。

最後に、5の自転車を活用したまちづくりですが、1の自転車の利用促進と交通安全の確保では、体験型の啓発イベントなど、2の自転車走行環境の整備では、高浜3号線ほか14路線で自転車レーンの整備工事やその設計など、3の放置自転車の対策では、自転車駐車場の管理運営、放置自転車の移動、保管、追放指導を、自転車駐車場の整備では、海浜幕張第2自転車駐車場のラック交換などを行ったものでございます。

道路部については、以上でございます。

○委員長（段木和彦君） 下水道企画部長。

○下水道企画部長 おはようございます。下水道企画部でございます。座って説明させていただきます。

下水道企画部、施設部の主な施策の概要及び成果について説明させていただきます。

初めに、一般会計の事業概要から説明させていただきます。

主要施策の成果説明書の229ページをお願いいたします。

事務事業名1の排水施設整備でございますが、宇那谷町他において水路拡張工事などを行ったものでございます。

次に、事務事業名2の都市下水路整備でございますが、東寺山調整池において草刈り業務などを行ったものでございます。また、八千代都市下水路他は共同事業に対する建設事業負担金でございます。

次に、230ページをお願いいたします。

事務事業名3の河川改修ですが、支川都川ほかにおいて河道築造工事などを行ったものでございます。

事務事業名4の急傾斜地崩壊対策でございますが、(1)の市事業につきましては、仁戸名町ほかにおいて崩壊防止工事などを行ったものでございます。(2)の件事業負担金につきましては、大宮町ほかにおける工事等負担金でございます。

以上が一般会計の事業概要でございます。

続きまして、下水道事業会計の事業概要について御説明いたします。なお、事業の概要につきましては、17日に行われました総括説明におきまして御説明しておりますので、省略させていただきます。

下水道事業会計決算書の16ページをお願いいたします。

イの経営状況についてでございます。各金額については、消費税及び地方消費税抜きの金額となっております。

まず、損益収支の総収益は、前年度に比べ1.4%、4億438万5,000円増加し、291億9,468万2,000円となっております。これは、長期前受金戻入が企業債元金償還に係る一般会計繰入金が増加したことにより3.3%、2億4,956万9,000円減少し、74億1,341万2,000円となったものの、下水道使用料が料金改定等により6.1%、7億8,842万4,000円増加し、137億217万4,000円

となったことなどによるものでございます。

一方、総費用は前年度に比べ2.0%、5億6,002万9,000円増加し、285億681万9,000円となりました。これは、前年度に過年度分の減価償却費の計上により増加した過年度損益修正損が99.8%、3億2,335万4,000円減少し68万9,000円となったものの、建設改良工事の執行増により、資産減耗費が45.8%、2億6,229万2,000円増加し、8億3,476万7,000円となったことや、令和6年2月に新たな処理場包括的維持管理業務委託契約を締結したことにより、処理場費が10.3%、2億4,909万9,000円増加し、26億6,197万円となったこと、さらに有形固定資産の増加により減価償却費が1.4%、2億2,659万2,000円増加し、162億4,535万8,000円となったことなどによるものでございます。

この結果、総収益と総費用の差引きで6億8,786万3,000円の純利益が生じることから、全額を企業債の償還財源とするため減債積立金に積み立てることとしております。今後も下水道事業が健全な経営を維持し、将来にわたって市民生活に重要なサービスを安定的に提供していくために、経営基盤の強化と財政マネジメントの向上に努めてまいります。

以上が下水道事業会計の事業概要でございます。

次に、農業集落排水事業会計の事業概要について御説明いたします。

農業集落排水事業会計決算書の13ページをお願いいたします。

ページ下のイの経営状況についてでございます。各金額については、同じく消費税及び地方消費税抜きの金額となっております。

本市農業集落排水事業は、人口密度が低い農村地域を対象としており、採算性が低いことから収益不足を一般会計からの補助金で賄っております。これにより損益収支を均衡させており、令和6年度の総収益及び総費用は、いずれも5億8,473万9,000円となっております。

収益の主なものは、長期前受金戻入3億8,114万8,000円、一般会計補助金1億2,501万7,000円です。

また、費用の主なものは、減価償却費3億8,114万8,000円、農業集落排水施設費1億862万9,000円です。

今後も収益の確保と費用の縮減を図り、効率的かつ効果的な事業運営に努めてまいります。

説明は、以上でございます。それでは、よろしくお願いいたします。

○委員長（段木和彦君） ありがとうございました。

それでは、御質疑等がありましたらお願いいたします。亀井委員。

○委員（亀井琢磨君） 一問一答でよろしくお願いいたします。長くならないように、なるべく簡潔にやりたいと思います。よろしくお願いいたします。

初めに、土木部からお願いいたします。電線共同溝整備については、毎年予算でも決算でも伺っているところなのですが、改めて進捗について確認させていただければと思います。

○委員長（段木和彦君） 中央・美浜土木事務所長。

○中央・美浜土木事務所長 中央・美浜土木事務所佐瀬でございます。よろしくお願いいたします。

まず、青葉町地区でございますが、令和5年度で本体工事1,600メートルは全て完了しております。令和6年度については、千葉大綱線のハーモニープラザ交差点から国道16号までの

1,100メートルについて、各家庭などへ電線類を供給する引込連携工事を行いました。残る引込連携工事、歩道整備工事などを行って、令和8年度に完成する予定となっております。

幕張地区についてですが、令和6年度末で本体工事1,100メートルが完了いたしまして、令和7年6月に本体工事500メートルが完了しましたので、本体工事1,600メートルが全て完了しております。残る引込連携工事、歩道整備工事などを行って、今年度内に完了を予定しております。

椿森地区におきましては、国道126号椿森中学校入口から国立病院機構千葉医療センターまでの300メートルについて、令和5年度に測量を行い、6年度に設計に着手し、今年度地元と調整を行った後、本体工事に着手する予定となっております。

以上でございます。

○委員長（段木和彦君） 亀井委員。

○委員（亀井琢磨君） それぞれ詳しくありがとうございました。それぞれが着実に進捗して、幕張地区のほうは今年度完了で、青葉町地区のほうもようやく見通しが見えた、令和8年度完了予定ということで、それぞれ分かりましたので、引き続き椿森地区なども始まっておりますけれども、ぜひそれぞれ進むように期待したいと思います。

それから、続きまして、交通安全施設等整備で、通学路の安全対策は毎年ずっとカラー化などを進めていただいているかと思うのですが、令和6年度の対応状況について確認させていただければと思います。

○委員長（段木和彦君） 土木保全課長。

○土木保全課長 土木保全課、石黒でございます。よろしくお願いいたします。

令和6年度は、警察や学校関係者ともに39校の合同点検を行いまして、通学路の安全対策として、路肩のカラー化を約44キロと、防護柵約600メートルなど実施しております。

以上でございます。

○委員長（段木和彦君） 亀井委員。

○委員（亀井琢磨君） ありがとうございます。計画だと毎年新規で10キロと補修で3キロなので、計画よりも多めにやっていただいていると理解いたしました。引き続き、安全対策もまた毎年積み上げていただければと思います。

それから、あわせてなのですが、交通安全対策では、小松崎委員が今日いらっしゃいますけれども、ゾーン30プラスですか、山王町のほうでは市内で初めて設置、設定されたのですが、この辺はどういう効果や成果を挙げていらっしゃるのかも確認しておきたいと思います。

○委員長（段木和彦君） 土木保全課長。

○土木保全課長 土木保全課です。

山王町小学校付近で設定しましたゾーン30につきましては、令和7年1月に整備が完了しております。ETC2.0を活用した効果検証では、朝夕の通学時間帯におきます車両の平均速度について、30キロ未満の区間が増加していることから、効果が表れているところでございます。

以上でございます。

○委員長（段木和彦君） 亀井委員。

○委員（亀井琢磨君） ありがとうございます。道路の幅を狭めたりいろいろな工夫をされた

りで、こちらのほうもプラスの効果が出ているとのことで、効果を見ながら、またこういうものをほかの地区で広められるのかななどを御検討していただければと、お願いしたいと思います。

それから、橋梁の整備で、歩道橋については今までもいろいろな地区の質問をさせていただいたのですが、改めて歩道橋の維持管理や長寿命化について、今、第3期の計画で進められると思うのですが、どのような状況か大きく聞きたいと思います。

○委員長（段木和彦君） 土木保全課長。

○土木保全課長 土木保全課です。

令和4年度からの第3期計画におきまして、これまでに8橋の修繕が完了したところでございます。令和6年度末現在、4段階あります健全性でございますけれども、その中で最も低い緊急措置段階、いわゆるIV判定と言われる判定の歩道橋は今ない状況でございます。全体としておおむね良好な状態が保たれていると思ってございます。

○委員長（段木和彦君） 亀井委員。

○委員（亀井琢磨君） 分かりました。ありがとうございます。修繕、塗り替えなどもお金がかかるところですけれども、着実に維持に努めていただいて、撤去を検討されているところもあると計画ではありますので、その辺も地元と調整を進めていただいて、丁寧に進めていただければと思います。

それから、自転車を活用したまちづくりで、1点だけ今回は伺いたいと思いますけれども、ちばチャリステーションの取組状況は、予算のときも少し伺ったと思うのですが、取組状況や利用状況について、今どのような感じか、令和6年度はどのような感じだったのか、確認したいと思います。

○委員長（段木和彦君） 自転車政策課長。

○自転車政策課長 自転車政策課でございます。

取組状況でございますけれども、現在実証実験中ではございまして、店舗側の配置人員で適切に利用できるか、また安定的にサービス提供できるかなど運用上の支障の有無等を確認しているところでございます。令和6年度末時点で16店舗で運用中ではございますけれども、現在認知度が低く、知っていれば利用したかった方もいらっしゃるかと考えておりまして、認知度向上を図る必要があるため、市ホームページや商工会議所など関係機関のホームページ、それからイベント情報誌に掲載するなど、様々な手段を活用し、周知しております。

利用状況でございますが、店舗で記録を取っていただいておりますけれども、一部記録されていない状況もあるため利用回数は正確に確認できないものの、年間100回以上の利用があると認識しております。

以上でございます。

○委員長（段木和彦君） 亀井委員。

○委員（亀井琢磨君） 引き続き実証実験中で、これが実現しますと大変便利な制度で、自転車に乗る方、ふだんから使う方にとっては非常に資するところが大きいですので、ぜひまた今後も取組を積み上げていただいて、ぜひ制度としてスタートするように期待したいと思っております。

それから、予算のほうには載っていたのですが、決算のほうには載っていなかったのですが、令和6年度は緊急輸送道路の沿道樹木の伐採助成があったかと思うのですが、この実績はどうなっているのか、150本ぐらいそういう木があったと思うのですが、確認しておきたいと思います。

○委員長（段木和彦君） 土木管理課長。

○土木管理課長 土木管理課、柳澤でございます。

緊急輸送道路沿道における樹木伐採奨励制度につきましては、昨年度制度設計を行いまして、令和7年3月に要綱を定めたところでございます。令和6年度の実績につきましては、制度設計に時間を要してしまったため周知期間が確保できなかったことから、伐採まで至った案件がなかったところでございます。今年度において、過年度調査の150本も含め、所有者調査や制度説明を順次行っているところでございます。対象となり得る方々に本制度の趣旨を理解いただきまして、所有者による緊急輸送道路沿道の樹木の適正な維持管理を促し、土木被害に対する意識喚起を図っていきたいと考えております。

○委員長（段木和彦君） 亀井委員。

○委員（亀井琢磨君） ありがとうございます。令和6年度は制度設計をして、今年度も予算化されていますけれども、これから取り組むと理解いたしましたので、ぜひ必要なところに届くようお願いしたいと思います。

それから、土のうステーションについて伺いたいのですが、この夏も雨の被害などが大変心配されるところですが、結構いろいろなところに配置していただいていると思います。配置状況や実績、活用については進んでいるのか、少し伺っておきたいと思います。

○委員長（段木和彦君） 土木管理課長。

○土木管理課長 土木管理課です。

令和6年度末時点で市内に81基を設置しております。令和5年度の台風13号の後に、市内の土のうステーションの土のうの在庫を確認したところ、約3割に当たる25基で土のうがなくなっていたり減っていたりしていることから、利用された実績を確認しております。また、今月5日に発生しました台風15号の際には、約6割に当たる54基で土のうステーションが利用されたことを確認している状況です。

○委員長（段木和彦君） 亀井委員。

○委員（亀井琢磨君） 分かりました。増設も少しずつしていただいていることが分かりましたし、基本的には、やはり雨の被害があるところを中心という配置の考え方だろうと思うのですが、今年も使われていると理解できました。ただ、市民の中には気軽に使っているのか、まだ少し、使った後どうしたらいいのかなど、まだそこまでなかなか制度を十分に分かっていない方もいるので、より周知されてもっと利用が進んでいくといいと思いますので、またその辺の工夫もぜひお願いしたいと思います。

では、道路部に今度は移りたいと思います。まず、新設改良のほうから、他の会派の議員の関心も高いところから幾つか伺いますけれども、一つは、（仮称）検見川・真砂スマートインターチェンジなのですが、令和6年度からの進捗について改めて確認させてください。

○委員長（段木和彦君） 道路計画課長。

○道路計画課長 道路計画課です。よろしくお願いいたします。

令和6年度につきましては、オンランプ側の測量、設計、土質調査を行ったほか、オンランプ整備に伴いまして影響部となる袖ヶ浦第3緑地の修景設計を実施いたしました。また、オフランプは検見川立体と併せて路線測量を実施しております。

今年度におきましては、オンランプ側の詳細設計とオフランプ側の予備設計を実施しているところでございます。

○委員長（段木和彦君） 亀井委員。

○委員（亀井琢磨君） ありがとうございます。では、あわせて、西警察署交差点辺りから浅間神社のほうに向けての整備があるかと思うのですけれども、その辺の進捗についても併せて伺いたいと思います。

○委員長（段木和彦君） 道路計画課長。

○道路計画課長 検見川立体のほうですが、これまでに橋梁予備設計と路線測量を実施しております。今年度におきましては、土質調査と道路予備設計を実施しているところでございます。

○委員長（段木和彦君） 亀井委員。

○委員（亀井琢磨君） 分かりました。それぞれ進んでいると理解いたしました。この辺の深掘りや意見はほかの委員からもこの後あるかと思うのですので、そちらに回したいと思っておりますけれども、会派としては、粛々と進めていただければと思っております。

それから、街路整備のほうに移らせていただいて、こちらもほかの委員からも多分あるかと思うのですけれども、磯部茂呂町線の進捗について改めて一応確認させていただければと思います。

○委員長（段木和彦君） 街路建設課長。

○街路建設課長 街路建設課です。

磯部茂呂町線の山王町地区でございますが、延長2.4キロメートルございまして、3つの工区に分けて事業を実施しております。去年用地取得を行っておりますが、西側から、園生町交差点から京葉道路までの1工区で令和6年度末時点で78%、京葉道路から国道16号線までの2工区で73%、国道16号線からヴィルフォーレ稲毛までの3工区ですが、こちらは40%、全体で70%となっております。

以上でございます。

○委員長（段木和彦君） 亀井委員。

○委員（亀井琢磨君） ありがとうございます。去年は67%ぐらいだったかと思うので、着実にこちらも、大変な中ですが進んでいると理解いたしましたので、後でまたほかの委員からお話があるかもしれませんが、状況については理解させていただきました。

それから、幹線街路整備で、ここからすみません、私の地元のことを少し伺っておきたいのですけれども、一つは、何回も伺っていますけれども、南町宮崎町線の進捗は、令和6年度はどういう感じだったのか、改めて伺いたいと思います。

○委員長（段木和彦君） 街路建設課長。

○街路建設課長 こちらにつきましては、街路整備によって段差が生じる土地がございまして、そちらの地権者との接続方法についての協議が調いましたことから、現在工事の発注に向けて

残る未整備区間の発注準備を行っているところでございます。一応、こちらは今年度末の完成を目指しているところでございます。

以上でございます。

○委員長（段木和彦君） 亀井委員。

○委員（亀井琢磨君） 分かりました。本当にあと最後のところで、ずっと丁寧に調整を多分続けておられたのは承知しておりますので、今年度は見通しが立ったとのことで、お疲れさまでしたと、頑張っていただけだと思います。

それから、今進んだとお話だったのですけれども、もう一つ進んだのは、記載にありますけれども、松波要町線、ほかの地区の方は分からないかもしれませんが、線路の1本向こう側のサイクル会館の前の辺りだと思うのですが、あそこもずっとなかなか引っ込まないところがあったと思うのですけれども、現在工事が確が行われているのを目にしたのですが、これで整備完了になるのかを少し確認しておきたいと思います。

○委員長（段木和彦君） 街路建設課長。

○街路建設課長 こちらにつきましては、用地が未取得であったため、一部暫定的に幅員を絞っていた箇所がございましたけれども、昨年度この用地が取得できたことから、現在工事を行っているところでございます。この工事の完了によりまして、全面的に供用開始となるところでございますが、一部歩道部分で10センチから20センチほどまだ未取得の部分が残っておりますが、こちらについては引き続き用地取得を行っていこうと考えております。

以上でございます。

○委員長（段木和彦君） 亀井委員。

○委員（亀井琢磨君） 分かりました。ほとんど完成が見えていると理解しましたので、こちらでも大変お疲れさまでございました。ありがとうございました。

それから、最後ですけれども、松波新港線です。幸町から西千葉に上っていく道なのですが、あそこでも大変いろいろ御苦労されて今やっているので、ずっとこの間見ておりますけれども、進捗状況について、それからあの辺の方が今回どいたというお話もあったのですけれども、暫定的に整備できる部分もあるかとお見受けするのですけれども、その辺のお考えについて伺っておきたいと思います。

○委員長（段木和彦君） 街路建設課長。

○街路建設課長 松波新港線につきましても、現在用地の取得を進めているところでございます。昨年度末時点で取得率が84%となったところです。こちらについて引き続き用地の取得に努めまして、取得できた箇所については暫定的な歩行空間の整備を実施してまいります。

以上でございます。

○委員長（段木和彦君） 亀井委員。

○委員（亀井琢磨君） ありがとうございました。途中まで大変きれいに整備されていて、その先もうまくつながっていくといいかと思いますので、こちらでもぜひ引き続き頑張っていたいただければと御期待申し上げたいと思います。

それでは、下水道企画部と施設部に入りたいと思います。幾つかありますのでお願いいたします。

まず、急傾斜地崩壊対策事業です。こちらも、すみません、毎年伺っていますけれども、改めて進捗状況についてと、それから中央区の中では、大体緑区が多かったと思うのですが、中央区は今進捗がどうか、教えていただければと思います。

○委員長（段木和彦君） 総合治水課長。

○総合治水課長 総合治水課でございます。

まず、進捗状況でございますが、市内における崩壊防止工事対象箇所として158か所ございまして、そのうち急傾斜地崩壊危険区域に指定され、事業化されている箇所が46か所中令和6年度末までで38か所が完了しております。進捗率は83%となっております。そのうち、中央区では、対象箇所が35か所のうち区域指定されているものが8か所、そのうち6か所が完了して、進捗率は75%の状況でございます。

以上でございます。

○委員長（段木和彦君） 亀井委員。

○委員（亀井琢磨君） よく分かりました。ありがとうございました。

それから、この危険地域は今県の基礎調査をやっておられて、それによって今後も対象地域が増えていくことだったと理解しておるのですが、そういう理解でいいのか、少し確認しておきたいと思います。

○委員長（段木和彦君） 総合治水課長。

○総合治水課長 現在、千葉県におきまして土砂災害警戒区域を新たに指定するために基礎調査を実施しております。この基礎調査は今年度末で完了する予定と県のほうからは伺っております。今後は、この調査結果を基に急傾斜地崩壊危険区域指定の要件を満たす箇所を工事対象箇所として増やしていくこととなります。

以上でございます。

○委員長（段木和彦君） 亀井委員。

○委員（亀井琢磨君） 今後も増えていくだろうということで、分かりました。

それから、そういった急傾斜地崩壊危険箇所があるわけですが、市が管理しているところもあると思うのですが、市が管理している急傾斜地崩壊防止施設の維持管理の状況についてはどうなっているか、少し危ないようなところもあるような、前の調査でそのようなことがあったと思うのですが、その辺はどうか、少し伺っておきたいと思います。

○委員長（段木和彦君） 総合治水課長。

○総合治水課長 本市が管理しております崩壊防止施設につきましては、急傾斜地崩壊防止施設維持管理計画に基づきまして点検や補修、施設の更新などを実施しております。なお、今年度実施しております定期点検により、健全度等の再評価を行うとともに維持管理計画の更新を行う予定となっております。

以上でございます。

○委員長（段木和彦君） 亀井委員。

○委員（亀井琢磨君） ありがとうございました。今年度、計画の更新等も行くと理解しましたので、引き続き適切な維持管理に努めていただければお願い申し上げます。

それから、雨水対策や河川改修について幾つか伺っておきたいと思います。雨水対策につき

ましては代表質疑でも伺わせていただきまして、特に重点のほうですけれども、この間いろいろ取組をいただいていることに関して改めて感謝を申し上げたいと思います。今日は、一般地区での取組が令和6年度はどう進んでいるかについて確認させていただければと思います。

○委員長（段木和彦君） 雨水対策課長。

○雨水対策課長 雨水対策課でございます。よろしくお願いいたします。

一般地区なのですが、現在3地区で整備を実施しているところでございます。1つ目としまして、千城台南地区なのですが、こちらは令和4年度から坂月第2調整池の拡張工事を行っておりまして、令和8年1月の完了を予定しております。2つ目としまして、誉田地区についてですけれども、こちらは、街路事業である誉田駅前線事業に併せまして、令和6年度より雨水管の新設に着手しております。引き続き誉田駅前から上流部の雨水管整備を実施する予定となっております。最後に、3つ目なのですが、稲毛海岸地区になります。こちらは、令和4年度より市道海浜1号線において雨水管の新設工事を実施しているところでございます。

以上でございます。

○委員長（段木和彦君） 亀井委員。

○委員（亀井琢磨君） ありがとうございます。重点のみならず一般のほうも計画に基づいて取組を進めていただいていると思いますので、引き続きこちらにも取組に期待していきたいと思っております。

それから、雨対策でいうと、この間坂月川や準用河川生実川のしゅんせつ工事が予算でも位置づけられてきたと思うのですが、令和6年度を取組はどうであったのかと、計画だと6年度で終わると理解しているのですが、今後の維持管理についてもお考えがあればお聞きしたいと思います。

○委員長（段木和彦君） 総合治水課長。

○総合治水課長 本市が管理しておる河川で坂月川、準用河川生実川につきましては、河道への土砂堆積や流下阻害となっている樹木等を撤去するため、令和3年度からしゅんせつ工事に着手しまして、令和6年度末で一旦完了をしております。今後につきましても、河川管理施設維持管理計画に基づきまして、毎月の河川パトロール、巡視を行うとともに、堤防などの点検、修繕等を実施し、機能維持に努めてまいります。

また、今年度施設の健全度等の再評価を行っておりまして、これに基づきまして維持管理計画の更新を行う予定となっております。

以上でございます。

○委員長（段木和彦君） 亀井委員。

○委員（亀井琢磨君） ありがとうございます。こちらも再評価、調査などをされて、計画の更新をされると理解しましたので、引き続き取組に期待したいと思います。

それから、229ページ、都市下水路整備で、東寺山調整池の草刈り等がありますけれども、市内の調整池の維持管理の状況は今どのように進めておられるのか、確認させてください。

○委員長（段木和彦君） 下水道維持課長。

○下水道維持課長 下水道維持課でございます。

まず、市内の調整池につきましては110か所程度あります。その維持管理については東寺山調整池を含む管理用地内の草刈り業務やオリフィスの点検業務、そして緊急時の警備業務などを毎年実施しております。このほか、一応管理用用地内のフェンスや通路などの突発的な修繕、維持補修や、大雨時には職員による現場パトロールなどを実施しております。

以上です。

○委員長（段木和彦君） 亀井委員。

○委員（亀井琢磨君） ありがとうございます。市内も調整池がたくさんあるので、昨日いろいろなところを少し見て回ったのですけれども、大変草もこの時期だと非常に伸びていて、草刈り一つとっても非常に大変だと思ったところです。ぜひ、適切に引き続き維持管理に努めていただいて、緊急時にしっかり機能するように努めていただければと思います。

それから、あわせて、うちの近くですとろっぽう水のみち、都市下水路を整備していただいておりますけれども、この辺りの維持管理や整備等はどうなっているのかも併せて確認させていただければと思います。

○委員長（段木和彦君） 下水道維持課長。

○下水道維持課長 下水道維持課です。

まず、ろっぽう水のみちの主な維持管理については、管理用地内の草刈りや遊歩道の清掃などの管理業務のほか、あと、遊歩道やベンチなどの維持補修を実施しております。また、主な整備につきましては、昨年度は稲毛区作草部町付近において水路の鋼矢板護岸や、はりの塗装工事を実施しており、延長が69メートルで約4,700万円となっております。

以上です。

○委員長（段木和彦君） 亀井委員。

○委員（亀井琢磨君） こちらも非常に長い水路で、いろいろ管理も大変だと思いますけれども、引き続き適正な管理にさせていただければと思います。また、一部まだ未整備、整備が期待される地区もありまして、そういうところからの要望もありますので、またその辺もぜひ今後御検討いただければと申し添えておきたいと思います。

では、下水道施設全般についてあと少し伺って終わりにしたいと思います。すみません、急ぎます。

1つは、これも毎回伺っておりますけれども、管渠の耐震化で、やはりこれは毎年行っていると思いますが、進捗が気になる場所ですので、改めて確認させていただければと思います。

○委員長（段木和彦君） 下水道整備課長。

○下水道整備課長 下水道整備課でございます。よろしくお願いいたします。

耐震化の状況につきまして、緊急輸送道路に埋設されている管路や避難所の下流の管路などの重要な幹線などに位置づけられました管渠を対象に耐震化を進めている状況で、対象となる全845キロのうち、令和6年度末までに739キロ、率にして88%が完了している状況でございます。

以上です。

○委員長（段木和彦君） 亀井委員。

○委員（亀井琢磨君） こちらも年々進んでいると理解したところであります。

それから、あとはマンホール蓋、これについても今鋭意更新していただいていると思うのですけれども、私のところも先般、道が狭いところですから全部取り換えていただいて、非常に住民の皆さんから安心だとの声がありました。マンホール蓋の更新の状況についても確認したいと思います。

○委員長（段木和彦君） 下水道整備課長。

○下水道整備課長 蓋の更新につきまして、千葉市下水道ストックマネジメント計画に基づきまして、平成30年度から飛散、浮上防止機能を有した安全対策型への蓋に年間1,000基程度ずつ更新している状況でございます。令和6年度の実施箇所といたしましては、約1,100か所の蓋の更新を行っております。

以上です。

○委員長（段木和彦君） 亀井委員。

○委員（亀井琢磨君） ありがとうございます。こちらの実施計画だと令和7年度末で8,000か所ぐらいですか、順調に進んでいると理解しましたので、引き続きお願いしたいと思います。

それから、管の改築や更新の状況についてお聞きしたいのですけれども、先般も工法について少しお話があったと思うのですけれども、今までそういえば工法についてあまりこういう場で議論がなかったのですけれども、今更生工法で実施されているかと思うのですけれども、更生工法もいろいろあると思うのですけれども、この辺りは全て実施されているのか、改めてお聞きしたいと思います。

○委員長（段木和彦君） 下水道整備課長。

○下水道整備課長 まず、更新の現状につきましてですが、八潮市で起きたああいって腐食に伴う陥没などを対象にしまして、本市におきましても腐食が発生しやすい箇所、管路や、敷設年度が古い管路など、リスクの高い管渠を対象に点検調査を実施してまいりまして、そのうち不具合があった箇所につきまして改築更新を行っている状況でございます。

今委員からありました工法につきましては、主に管更生更新、いわゆる既設の管渠の中に樹脂系のものを巻き立てて新たな管を構築する管更生工事がほとんど主体となっておりますが、一部、管の敷設替え、掘って管を入れ替えるような工事も実施している状況でございます。

以上です。

○委員長（段木和彦君） 亀井委員。

○委員（亀井琢磨君） 分かりました。ほとんどが更生工法で、更生工法もいろいろな方式があるので、少し不勉強なのではございますけれども、その辺もまた少し勉強したいと思いますので、またいろいろ教えていただければと思います。

それから、先般も緊急の点検が行われたと思うのですけれども、やはり下水道の施設に様々な異常がないか大変心配されるのですけれども、令和6年度の点検の状況について伺いたいです。大きな異常はなかったと思うのですけれども、どのような感じだったのか、詳細も含めていただければと思います。

○委員長（段木和彦君） 下水道維持課長。

○下水道維持課長 下水道維持課です。

まず、点検につきまして、昨年度は主に緑区おゆみ野有吉及び美浜区浜田1丁目周辺などの管路で約22キロメートルを対象に管口カメラや目視により実施し、管路の異常や土砂の堆積などは確認されませんでした。また、調査につきましては、中央区矢作町、村田町、花見川区幕張町、横戸台、さつきが丘及び美浜区高洲3丁目などの管路で約61キロメートルを対象に、テレビカメラや目視により実施し、経年劣化により一部の管路でクラックや侵入水などが見受けられましたが、管の硬度としては特に問題はない結果になっております。

以上です。

○委員長（段木和彦君） 亀井委員。

○委員（亀井琢磨君） ありがとうございます。いろいろ目視やカメラで調査されて、一部クラックなどがあつたけれども、全般としては問題ないと、状況については理解いたしました。

その点検につきましては、今お話がありましたけれども、目視やカメラでやっておられると思うのですけれども、それではなかなか把握できない場所や、昨今だと非常に作業が厳しい場所もあることもあって、ドローンや浮立式の機械等の活用も進められていると聞いておりますけれども、そういう難しい箇所はどの程度あるのかと、そういったところへの対応については現状や今後はどうお考えか、重ねてお聞きしたいと思います。

○委員長（段木和彦君） 下水道維持課長。**○下水道維持課長** 下水道維持課です。

まず、現状なのですが、目視が点検で困難な内径、我々3メートル以上と位置づけておりますが、その雨水管路を約9キロメートル、また、管路内の水量が多く、通常のテレビカメラ車では調査が困難な内径80センチ以上の汚水管路を約18キロメートル、今押さえております。

今後につきましては、作業者の安全を一層確保するため、腐食環境下の管路の点検方法を見直しすることや、10年後には50年以上経過する管路の割合が約12%から21%に増えていくことを踏まえまして、現在管路の状況に応じた新技術を活用して点検調査方法の見直しを進めているところでございます。

以上です。

○委員長（段木和彦君） 亀井委員。

○委員（亀井琢磨君） ありがとうございます。お話がありましたけれども、10年後には耐用年数を超えてしまうところも大変、2割ぐらい増えてくるので、今後もしろいろな技術があるそうですから、そういうものも含めてぜひ点検調査を進めていただければと思います。

では、すみません、最後になりますけれども、下水の使用料の議案もあつたのですけれども、今後の経営をしっかりと何とか維持していく意味で、やはり下水道の資源の有効利用や活用は前からも期待されるところですし、昨今の温暖化の対策も含めて大変重要だと思うのですけれども、令和6年度の取組及び進捗について、最後に確認させていただければと思います。

○委員長（段木和彦君） 下水道経営課長。**○下水道経営課長** 下水道経営課、吉井でございます。

まず、地球温暖化対策につきましては、温室効果ガスにつきまして2030年度までに約70%削減の目標を掲げました下水道における地球温暖化対策2030を昨年6月に策定したところでござ

います。また、その取組の一つといたしまして、令和５年度から、温室効果ガス削減効果の高い固形燃料化施設の建設を２基進めておりまして、ようやく令和８年度に１基目が供用開始する予定となっております。また、製造された燃料化物につきましては、石炭の代替燃料として有効利用され、さらに温室効果ガスの削減に寄与するということでございます。

また、南部浄化センターにおきまして、現在環境局の施行になるのですが、太陽光発電の導入を進めておりまして、昨年度９月からパネル工事の設計に着手しており、令和８年度から発電をする予定となっております。また、同様に中央浄化センターにおきましても今導入の検討を進めているところでございます。発電した量につきましては、年間で大体一般家庭の５５０世帯を使用する電力に相当いたしまして、この全量を浄化センター内の電力として使用することになっております。

さらに、下水汚泥の有効利用の取組といたしまして、処理過程で発生する消化ガスにつきまして、焼却炉の燃料や発電に有効利用しているほか、現在焼却灰につきましては全量セメント原料化施設などに搬入をして有効利用を図っています。

以上でございます。

○委員長（段木和彦君） 亀井委員。

○委員（亀井琢磨君） ありがとうございます。汚泥の固形燃料化施設も令和８年度から１基目で、それから太陽光も８年度からで、それぞれ新たな取組も進むと確認できましたので、ぜひいろいろな資源について余すところなく使っていただいて、少しでも経営も含めて取組をいい方向に進めていただければと思っております。

いろいろ各部分について伺ってきましたけれども、令和６年度の取組について、それぞれ理解できました。市民の安心・安全のために、建設局の皆さんには引き続きインフラの維持、整備にぜひ頑張ってもらえればと申し上げまして、私の質疑を終わりたいと思います。

○委員長（段木和彦君） ほかにございますでしょうか。佐々木委員。

○委員（佐々木友樹君） 一問一答でお願いいたします。

土木部のほうの側溝改良について伺いたいと思います。私もいろいろなところで取り上げてきたのですが、落ち葉などによってグレーチングがこういったところを塞いでしまって冠水する状況は、土木部としては、土木事務所などを含めて把握されているのかと、土木事務所による目視や市民による通報の件数を、分かる範囲で示していただきたいと思います。

○委員長（段木和彦君） 土木管理課長。

○土木管理課長 土木管理課です。

台風や大雨時に複数回道路冠水が発生しております冠水リスクのある箇所については、市内約１００か所程度と把握しております。令和６年度に道路冠水や側溝の詰まりなどを土木事務所の道路パトロールが目視で処理した件数については、約４００件、市民からの通報により処理した件数は約８００件、合わせて１，２００件でございます。

○委員長（段木和彦君） 佐々木委員。

○委員（佐々木友樹君） これについては、市政だよりやホームページなど、いろいろな形で排水口の集水ますの落ち葉等の掃除を呼びかけておりますけれども、その効果についてはどのように捉えておりますでしょうか。

○委員長（段木和彦君） 土木管理課長。

○土木管理課長 土木管理課です。

本市では、状況に応じまして道路の集水ますなどの清掃を行っておりますが、落ち葉やごみの堆積状況については日々変化していることや、生活道路も含めると膨大な施設数となることから、市民の皆様に集水ますの状況報告や表面部の清掃協力をお願いすることで道路冠水を減少させる効果があると考えております。また、このほかに市民の皆様の自助に資する取組の機運が醸成され、地域の防災力強化も図られるのではないかと考えております。

○委員長（段木和彦君） 佐々木委員。

○委員（佐々木友樹君） このことについてはホームページでも、YouTubeなどを使ってお知らせはされているかとは思うのですが、結構、通報件数が800件で、その処理に当たる職員の方もかなり負担が大きいのではないかと思います。そういう意味では、事前の対応で落ち葉を少しでも取ってくださいますということも含めてやらなければいけないのですが、突然の大雨が結構最近増えているので、そういった中での対策では通報してもらえないのかとは思いますが、できるだけ多くの市民の方に危険がないように処理、対応してもらい、一つ呼びかけとしては必要かと思えます。

今、ちばレポでかなり道路やいろいろな不具合のところを対応していただいておりますけれども、道路冠水をしやすい箇所の把握について、現状としてどのような形でやられているのか、また市民からの報告についても呼びかけをされてはどうかと思いますが、いかがでしょうか。

○委員長（段木和彦君） 土木管理課長。

○土木管理課長 土木管理課です。

今おっしゃられたとおり、ホームページにおいて道路冠水している箇所や集水ますの表面が落ち葉などで塞がれている箇所を発見した際には、土木事務所への連絡や、ちばレポによる通報をお願いしているところでございます。引き続き、ホームページに加えましてSNSなども活用しながら、市民の皆様に冠水箇所などを広く呼びかけていきたいと考えております。

○委員長（段木和彦君） 佐々木委員。

○委員（佐々木友樹君） それと、土木部ができる対策としては、道路冠水を抑制するための冠水対策型のます、集水ますの設置でありますけれども、これはどの程度市内で進んでいるのかと、今後の整備の考えについても伺いたいと思います。

○委員長（段木和彦君） 土木管理課長。

○土木管理課長 土木管理課です。

平成24年度から冠水対策型のますの設置を行っておりまして、令和6年度末までに合計509基を設置したところでございます。引き続き、道路冠水のリスクのある箇所や地元要望などを踏まえまして、設置の可否を検討の上、舗装や側溝改良などの道路工事と併せまして冠水対策型のますの設置を進めていきたいと考えております。

○委員長（段木和彦君） 佐々木委員。

○委員（佐々木友樹君） 分かりました。市民にも安全に対策できるとの呼びかけをぜひしていただきたいと思います。私も可能な限り大雨が降る前にできればいいのですが、降った直後ぐらいではないと私はできなくて、スコップを持ちながら回ったりしていますけれ

ども、そういったことをぜひ呼びかけていただきたいと思います。

続いて、道路橋梁のほうになると思うのですが、歩道橋、先ほど亀井委員からもあったと思うのですが、国道、県道、市道で、そこにかかっている歩道橋の修繕に対する市民の要望が年間どのぐらいの間寄せられているのか、まずお示しいただけますか。

○委員長（段木和彦君） 土木保全課長。

○土木保全課長 土木保全課でございます。

要望が寄せられている件数ですけれども、令和2年度から6年度までの5か年で約200件程度の修繕要望が寄せられているところでございます。

○委員長（段木和彦君） 佐々木委員。

○委員（佐々木友樹君） それで、腐食による歩道橋の劣化がよく市民の方から要望が寄せられることが多いのですが、これをどのように判断して補修を行っているか、先ほど亀井議員からの答弁にもあったかと思うのですが、どのように補修を行っているのでしょうか。

○委員長（段木和彦君） 土木保全課長。

○土木保全課長 土木保全課です。

橋梁長寿命化の計画に基づきまして、5年に一度の点検をしております。歩道橋を構成するげたや柱などにおける塗装の剥がれや、さびなどの劣化状況をまず把握しまして、対策の必要性の判断をしているところでございます。また、その判断結果によりまして、健全性を4段階に区分し、健全性の低い歩道橋から補修を行っているところでございます。

以上でございます。

○委員長（段木和彦君） 佐々木委員。

○委員（佐々木友樹君） それで、先ほどの亀井委員の答弁の中で、全体としてはおおむね良好だという答弁があったと思います。ただ、市民の方からは、階段の部分が腐食しているなど、そういったことが、あとは歩道橋の上の部分のところについて、この前何かあったと思うのですが、舗装をすると、部分的な補修をされていることが多いと思うのですが、全体としてやはり歩道橋が大丈夫だといっても市民の方には不安だと思う方が多いので、これはぜひその都度点検していただいて、可能な限りきれいな補修のされ方をしたほうがいいと、それだけは少し指摘させていただきたいと思っております。

次に、道路新設、インターチェンジの整備について伺いたいと思います。（仮称）検見川・真砂スマートインターチェンジですが、先ほど調査設計については亀井委員の答弁がありましたのでこれは省きますけれども、今後実際に実施設計されていくかと思うのですが、今一般的に言われているのは資材の高騰など、そういったものの影響はこのインターチェンジの事業費などに影響、変更が生じることがあるのか、その辺りを伺いたいと思います。

○委員長（段木和彦君） 道路計画課長。

○道路計画課長 総事業費につきましては、物価変動等の影響により変更する可能性はあるものと考えております。現在設計を行っているところでありまして、現時点では具体的な額の把握はできておりません。

○委員長（段木和彦君） 佐々木委員。

○委員（佐々木友樹君） 具体的にはこれからとのことで、分かりました。

一方で、住民への事業の説明会の開催の状況と、そこに参加された方も含めて周辺住民からの要望や意見、あと今後東京方面についても9月からですか、今週末から説明会を実施すると伺っておりますけれども、どこまでの範囲の説明会になるのか、伺います。

○委員長（段木和彦君） 道路計画課長。

○道路計画課長 （仮称）検見川・真砂スマートインターチェンジは、令和4年9月に新規事業化しまして、その後沿線29自治会にお住まいの方を対象に、対面式の説明会を5会場で計10日間実施したほか、ユーチューブ動画の配信によるウェブ説明会を実施いたしました。意見、要望ですが、便利になるので早く整備してほしいといった整備に肯定的な意見が大多数でございました。要望としましては、整備に当たり渋滞対策や安全対策にしっかり取り組んでほしいといった声を頂いております。

今後行う説明会ですが、委員からもお話があったように、今週金曜日から来月22日にかけて、オンランプの整備や袖ヶ浦第3緑地の改修の内容についての地元説明会を、前回同様沿線29自治会の皆様を対象に開催する予定としております。

以上です。

○委員長（段木和彦君） 佐々木委員。

○委員（佐々木友樹君） これに少し関連してお聞きしたいのは、今回のスマートインターを設置することによって、例えば、現状使われている穴川インターなどの分散の効果だと思うのですが、どの程度の効果が出るのか、少し御説明いただけないでしょうか。

○委員長（段木和彦君） 道路計画課長。

○道路計画課長 今回のスマートインターチェンジの整備で、スマートインターチェンジの利用自体は登り側で9,000台、下り側は8,000台で、国道357号の当該箇所の交通量は現状に比べると増加することが予想されております。その分につきまして、これまで穴川インターチェンジを利用して、あの周辺は委員もおっしゃっていたように現状慢性的に混雑が発生しておりますが、インターチェンジの利用箇所が増えることで、その車両に（仮称）検見川・真砂スマートインターチェンジを利用していただいて、千葉市全体として混雑の分散が図れるものと考えております。

○委員長（段木和彦君） 佐々木委員。

○委員（佐々木友樹君） 効果については分かりました。新たな渋滞が出ないかと不安は少しあるのですが、整備費等々は今後ということで了解いたしましたけれども、できるだけ周辺の住民の皆さんに影響がないようにしていただきたいとだけは指摘しておきたいと思います。

次に、道路直轄事業負担金についてなのですが、決算額の3億4,250万円の内訳と、これらの国道における改良事業の具体的な内容について示していただけますか。

○委員長（段木和彦君） 道路計画課長。

○道路計画課長 国道357号湾岸千葉地区改良の蘇我地区など、改築事業としまして1億6,200万円、幕張5丁目交差点の歩道整備など交通安全事業で1億4,350万円、国道14号の幕張本郷地区で行う電線共同溝整備事業で3,700万円となっております。

○委員長（段木和彦君） 佐々木委員。

○委員（佐々木友樹君） このうちの国道357号の湾岸千葉地区改良、これは千葉地区、市役所前や蘇我地区にあると思うのですけれども、ここについての進捗状況、千葉市役所前は終わっていると思うのですけれども、その進捗状況と改良によってどの程度の効果が発現、出ているのか、お示しいただけますか。

○委員長（段木和彦君） 道路計画課広域道路政策室長。

○広域道路政策室長 広域道路政策室です。よろしくお願いします。

湾岸千葉地区改良は、事業区間が千葉地区と蘇我地区とに分かれてございます。千葉地区につきましては、千葉西警察署入口交差点からポートアリーナ交差点まで、蘇我地区についてはポートアリーナ前交差点から蘇我陸橋南交差点となっております。

進捗状況につきましては、先ほど委員からお話があったとおり、千葉地区は平成17年度に工事着手し、令和元年度に事業が完了してございます。蘇我地区は令和4年度に事業説明会を実施した後、用地測量などに着手し、現在は用地取得を行っているところでございます。

整備効果につきましては、千葉地区の整備効果で説明させていただきます。ピーク時における地下立体部の通過所要時間が木更津方面では約4割、東京方面では約6割短縮してございます。事故件数は約5割減少となっております。

以上です。

○委員長（段木和彦君） 佐々木委員。

○委員（佐々木友樹君） 道路直轄事業負担金について、今の千葉地区の状況については分かりましたが、道路直轄事業負担金について、令和7年度予算では4億2,200万円となっておりますけれども、今後の負担について決まっているものがあればお示しください。

○委員長（段木和彦君） 道路計画課長。

○道路計画課長 改築事業では湾岸千葉地区改良蘇我地区や検見川立体など、交通安全事業としましては国道14号等の区画線の設置など、電線共同溝事業として国道14号幕張本郷地区などが想定されております。

○委員長（段木和彦君） 佐々木委員。

○委員（佐々木友樹君） この直轄事業負担金については、我が会派は国道の改良なので国が負担すべきと求めてきた経過がありますが、負担金を見直したり廃止することについては国にどのような形で求めているのか、求めている内容も含めてお示しいただけますか。

○委員長（段木和彦君） 道路計画課長。

○道路計画課長 直轄事業負担金の廃止について、指定都市市長会において要望活動をこれまで継続して行っておりまして、要望内容としては、国と地方の役割分担の見直しを行った上で、国が行うこととされた国直轄事業については地方負担を廃止すること、また現行の国直轄事業を地方へ委譲する際には、所要額を全額税源移譲することといった内容で要望を行っております。

○委員長（段木和彦君） 佐々木委員。

○委員（佐々木友樹君） 了解しました。役割分担ではありますけれども、現状としては負担していることもありますので、私どもは廃止すべきだと繰り返し求めておきたいと思います。

次に、自転車を活用したまちづくりなのですから、ちばチャリ・すいすいプランの計画

がありますけれども、これに基づいた自転車走行環境整備の進捗状況について伺います。

○委員長（段木和彦君） 自転車政策課長。

○自転車政策課長 計画延長483.7キロメートルに対しまして、令和6年度末時点で88.9キロメートルの整備が完了しております。整備率18.4%の進捗でございます。

以上です。

○委員長（段木和彦君） 佐々木委員。

○委員（佐々木友樹君） 加えて、この自転車通行空間の整備による交通状況の変化について、かつてこれが導入された直後ぐらいには調査されているのをホームページで伺ったのですが、その後の調査は行っていないのでしょうか。この間の調査状況や、今年度どうするのかも含めてお示しください。

○委員長（段木和彦君） 自転車政策課長。

○自転車政策課長 整備後の交通状況の調査につきましては、今年度実施予定でございまして、直近では令和4年度に実施しております。

以上です。

○委員長（段木和彦君） 佐々木委員。

○委員（佐々木友樹君） 具体的に、どこかはもう決まっていますか。

○委員長（段木和彦君） 自転車政策課長。

○自転車政策課長 令和4年度に実施していますので、5年度以降に整備した箇所を調査する予定でございます。

以上です。

○委員長（段木和彦君） 佐々木委員。

○委員（佐々木友樹君） では、具体的な箇所はまだこれからでいいですか。分かりました。では、すみません、自転車のいろいろなルールが今度、来年度から変更になって、罰金なども取られるようになるのですけれども、自転車が車道の左側を走行しないで逆走することが、私の住んでいる地域なども含めてすごく見受けられるようになりました。

走行環境の整備を実施した際に、周辺においての走行ルールの周知徹底の活動をしていくべきだと思いますけれども、どうでしょうか。

○委員長（段木和彦君） 自転車政策課長。

○自転車政策課長 自転車走行環境整備に併せまして、整備路線周辺の自治会や小中高の学校に自転車走行のルールやマナーに関する啓発チラシを配付し、周知を図っております。また、自転車走行環境を整備した路線の近隣高校の生徒とともに、車道の左側を通行しましょうなどが表示されたプラカードを掲げまして、自転車利用者などへ直接声かけする該当啓発を実施しております。

以上でございます。

○委員長（段木和彦君） 佐々木委員。

○委員（佐々木友樹君） それでもなかなか知られていない市民の方も見受けられますので、それはこういった形で周知するのが必要かとは私も考えてはいるのですけれども、その場で声かけをしたらびっくりされてしまうのかとったりもするのですが、やはり危険に思うときも

あるわけです。こちら自転車に乗っていて、普段は車のほうが多いのですけれども、自転車に乗っていると向こうから来るのを私は想定していないので、やはり左側通行を本当に位置づけないと、事故が起きてからでは遅いと思います。

先ほど少し私も触れましたけれども、取締りが強化される中で、市としてルールの徹底、周知の実施については市民局も所管しているので連携して取り組んでいただきたいと思います。その実施についてはどのように行われる予定でしょうか。

○委員長（段木和彦君） 自転車政策課長。

○自転車政策課長 自転車の運転時に注意することにつきましては、市ホームページに解説動画を投稿することや、駐輪場利用の事前募集リーフレットに掲載すること、それから各種イベント時に啓発チラシを配付するなど様々な広報手段で安全利用の周知を図っております。また、自転車の安全利用につきましては、自転車安全利用講習会、それから交通安全教室や講話、各種イベント時などで周知しておりまして、その機会を活用し、違反に該当する行為を説明するなど周知を図っております。各種イベントにおきましては、市民局と協力して取り組んでおります。

以上でございます。

○委員長（段木和彦君） 佐々木委員。

○委員（佐々木友樹君） 分かりました。取締り強化で何千円も取られることはあってほしくないと思いますので、できるだけ多くの方に左側通行であったり、傘を持てないといけないなど、いろいろな処罰の対象が増えることを、千葉県警やそういったところとも連携しながら、ぜひ発信もやっていただきたいと思います。思っております。

最後になります。下水道ですけれども、私の地元、美浜区の影響で言うと、草野水のみちの整備がこの間行われてきたと思いますが、改良によるその後の効果はどのようなになっているでしょうか。

○委員長（段木和彦君） 下水道維持課長。

○下水道維持課長 下水道維持課です。

草野水のみちにつきましても、毎年護岸塗装工事を実施しております。その塗装工事の効果なのですけれども、水路の鋼矢板護岸及びH鋼材のはりを対象としており、水分、塩分、紫外線などの外的要因から部材を保護し、構造物の寿命を延ばす効果があります。また、塗膜により部材内部に侵入水などを防ぐことから構造物全体の耐久性が向上し、配水機能を維持するものと考えております。

以上です。

○委員長（段木和彦君） 佐々木委員。

○委員（佐々木友樹君） 草野水のみち全体として稲毛区の、稲毛町の浸水被害もほぼ見受けられていないので、美浜区もそういう状況がないように思うのですけれども、美浜区の区域において、例えば、水路から溢水したり、周辺家屋への被害は、これまでにはあるのか、ないのか、お示しいただけますか。

○委員長（段木和彦君） 総合治水課長。

○総合治水課長 総合治水課でございます。

これまで台風などの大雨時におきまして、水路から溢水したような被害について実績はございません。しかしながら、水路周辺において計画を上回る降雨などにより、既存の排水施設能力を超えたことなどが要因と思われる道路冠水などについて、一部報告されております。

以上でございます。

○委員長（段木和彦君） 佐々木委員。

○委員（佐々木友樹君） 草野水のみちの界面の上昇などによって、また上流部からの雨水によって多少変化があったときに、また美浜区のところで大雨が降って、それで道路冠水したのではないかと私も思うのですけれども、そういったことによって、特段住宅への被害がないとは了解しましたけれども、今後大雨がどれだけ発生するかは分からないので、できるだけ冠水しないような対策なり、調査なりを行っていただきたいと思います。思っております。

あと、美浜区の区域において、草野水のみちのフェンスを順次更新されてきているかと思いますが、それについての状況と、これに関連して樹木が結構、もう40年、50年たっていると、あそこはキョウチクトウなども含めて結構生い茂っているので、その対策も含めて今後どうするのか、樹木はたしか公園なので、その辺りをどのように連携してやっていくのか、最後にお聞きしたいと思います。

○委員長（段木和彦君） 下水道維持課長。

○下水道維持課長 下水道維持課です。

まず、フェンスにつきましては、昨年度は磯辺地区側の磯辺公園からJR京葉線高架下付近までの区間、378メートルを更新したところでございます。今年度につきましては、高浜地区側の高浜6丁目付近で185メートルのフェンスを更新する予定でございます。また、樹木につきましては、今委員おっしゃるとおり、水路の外側と水路の中側で公園と協力しながら樹木等の維持管理を行っております。基本的には市民の皆様に、例えば、交通への影響を与えるようなところにつきましては、順次伐採等をしているところでございます。

以上です。

○委員長（段木和彦君） 佐々木委員。

○委員（佐々木友樹君） 年々、樹木は公園のほうなのですけれども、特にキョウチクトウなどは結構茂ったりして、あともっと前に植えられたのか、周辺の方が植えられたのか分かりませんけれども、例えば、桜の木も、今は伐採されているところもあるかと思うのですけれども、そういったものがやはり道路を見えなくしているような状況もありますので、その辺りは引き続き取り組んで、少しは見通しがいいようにしていただきたいと述べて、終わりたいと思います。

以上です。

○委員長（段木和彦君） ほかにございますか。伊藤委員。

○委員（伊藤康平君） 一問一答でお願いいたします。

今回、決算で、毎回私なりにテーマを持って決算について確認させていただいておりますけれども、今回、久しぶりに都市建設委員会で、私の中の一つの大きなテーマとしてあるのは、個々の部分も少し聞いていきますけれども、国からの交付金をどのように執行していったのか、今やはり千葉市における財政的に大変な中で、いかに国からのお金をもらいながら進めていく

のかが大事だろうと感じています。

都市局のときにも聞いたのですけれども、都市局は主要成果の中にも社会資本整備総合交付金が挙げられて、局長以下皆さん何一つ答えられなくて全滅してしまっているような状況で、本当にそのような交付金の使い方でもいいのかと感じています。都市局についてはそう思っています。

メニューを見ると、建設局が所管する交付金のメニューがたくさんやはりあって、他都市では先ほどから話がある渋滞緩和に関する道路整備のことであったり、あとは安全で快適な道路環境はどう整備していくのかとの事業であったり、当然、防災・減災の部分もあるので、下水道関係の事業にもこういった交付金を活用して整備されている、進められているところがあります。

今回主要成果の中身を見ると、その辺の交付金の使いようが本市ではどうしているのかが見えないので、令和6年度は、国からの交付金をどのように有効に活用して事業を展開されたのか、教えていただければと思います。

○委員長（段木和彦君） 道路計画課長。

○道路計画課長 委員のおっしゃるように、市の財政負担も考慮しながら事業を推進していくためには、国費をしっかりと財源として確保していく必要があると考えております。従前からある個別補助と呼ばれるものに関しては、その使用目的や事業内容についてかなり制限がありまして、それに比べると交付金事業は自由度が高い制度となっております。そのことから、交付金事業については有効に活用していく必要があると考えております。

今、市では通学路における安全対策に一層取り組む必要があるなど、避難経路、物資輸送路を担う幹線道路のネットワーク強化が必要だろうと。また、既存施設については計画的な維持管理を行っていく必要がある、市内各地において都市経済活動を妨げるような交通混雑が発生している、こういうことを課題として捉えまして、これを解決するために、現在は4つの整備計画を策定しまして、交付金事業に取り組んでいるところでございます。

令和6年度につきましては、防災安全交付金として、千葉川上八街線であるなど生実本納線の赤井町地区の道路事業、また、同じく防災安全交付金の中では歩道のバリアフリー化、それから社会資本整備総合交付金の中で土気町17号線などの幹線道路などの整備を行っておりまして、引き続き財源の確保をしっかりと行っていくため、最大限交付金の有効活用に努めていきたいと考えております。

○委員長（段木和彦君） 伊藤委員。

○委員（伊藤康平君） 今、建設局は道路事業だけに交付金を使用している解釈でいいと受け止めておきます。

○委員長（段木和彦君） 少し待ってください。下水道経営課長。

○下水道経営課長 すみません、下水道についても交付金を使って事業を進めているところがございます。下水道につきましては、社会資本整備総合交付金で、これにつきましては主に未普及解消のための汚水整備や、あとは資源利用などの事業が主な事業の形になっておりまして、本市におきましては資源利用で肥料利用やバイオマス活用など、そういった形の検討業務やそういったものをやっていたり、あと一部改築事業につきましても、こちらを充当して整備

を行ったこともあります。あと、中央浄化センターの再構築事業などの設備工事、そういったことにも充当させていただきました。

また、防災安全交付金につきましては、やはり国土強靱化で浸水対策や管渠、処理場の地震対策の事業に交付金を充てさせていただいております。あと、ストックマネジメント計画も続きまして、処理場施設の、主に改築事業などに充当させていただいています。一部事業の目的が明確になっているところにつきましては、一部先祖返りしているところもあるのですが、個別補助事業、個別補助金も最近拡充しておりまして、これにつきましては、特に浸水対策で重点地区の整備、浸水被害が多かったところ、そういったところや、あとは官民連携事業で、今管路包括の検討など、そういったものをこちらの個別補助金を使って検討を進めていったところでございます。

以上でございます。

○委員長（段木和彦君） 土木部長。

○土木部長 土木部でございます。

土木部におきましても、なかなか道路の維持管理費には使えない制度で苦慮しているところでございます。これについては要望を上げて、使えるものに何とか充当できないかと市長筆頭に要望活動の中で訴えているところでございます。

それで、土木部で大きなものとしては橋梁の耐震化に充当したり、橋梁、歩道橋の塗り替え、改修を主なものとして使って投入しているところでございます。交付金を要望してもなかなかついてこないのが現状でして、なかなか全部が全部思ったとおりできていないのが実情でございまして、これに関してもなるべく交付金を市全体として、どの県、市も含めてなかなか厳しい状況がございまして、その中で、何とか大きな事業だけでもつけてもらえないかと活発に要望活動を実施しておりまして、その中で訴えていくような現状がございまして、なかなかうまく進んでいないところはございますが、努力を重ねてまいりたいと思っているところでございます。

以上です。

○委員長（段木和彦君） 伊藤委員。

○委員（伊藤康平君） ありがとうございます。交付金自体は、国は声高らかに自由度が高いですと、地方の課題を解決するために使えると言っていますが、実際のところは使える範囲が非常に難しい。最終的には、最初に計画を立てて、そして最後の結論として定量的な評価をしていかなければいけないところが、少し皆さんの使い勝手が悪いところではあるのかと感じています。

でも、熊本市などは、これまでずっとこの交付金を使って、今言った下水であったり、道路であったり、要はにぎわいをどうつくっていくのか、道路空間をどう整備していくのか、先ほども街路樹の話もありましたけれども、街路樹の関係についてもどのように進めていけばいいのか、うまく計画を立ててこの交付金を使われていると思います。もう少し中身を、当然要望していくところは要望していきますけれども、皆さんにとって課題になっているところをうまく抽出していただいて、うまく国の交付金を使っていくと、財政的な負担が少しでも軽減できると思います。

今建設局は非常に投資している部分のお金がたくさんあるので、そういった意味ではやはり

国の交付金を使うことは今後の投資をしていく部分でも大きなメリットがあるので、しっかりと検討して引き続き活用していただきたいと思います。

続いて、入札について確認させてもらえたらと思います。まずは、令和6年度、今よく不調が多いことも耳にするのですが、現実、令和6年度は工事の発注等に対してどれぐらいの不調があって、計画に影響を及ぼすような事案がどれぐらいあったのか、教えていただけますでしょうか。

○委員長（段木和彦君） 技術管理課長。

○技術管理課長 技術管理課でございます。

不調の割合なのですけれども、都市局も含めて全体的なものになるのですが、約2割の不調率が発生しているところでございます。（「何本に対してですか。割合として」と呼ぶ者あり）確認させていただきます。（「分からなかったら後でいいです」と呼ぶ者あり）

○委員長（段木和彦君） 都市局も入っている話だから。では、伊藤委員。

○委員（伊藤康平君） では、後で年度内の。都市局のものは関係ないので、建設局が所管するものに対してどれだけの、年間幾ら工事を発注して、そのうちの2割との話ですから、幾つの工事が不調になっていったのか、教えていただければと思います。

要は、何でこのようなことを聞いているかということ、皆さんも御承知かと思えますけれども、まず簡単な課題のところから行くと、今、国も酷暑によって夏の期間、7月、8月など、この期間を夏の猛暑対策として休工していこうと、特に国の直轄工事などはこれから多分モデル的にやっていくようなことも聞いていますけれども、そうなってくると、2か月といえど60日間あるわけですから、今工事等の平準化を図って1年間通じて発注されていますけれども、こうした大きな長期休業などの工事ができない期間が生まれてくると、発注にもやはり影響してくるのではないかと感じています。そういった意味では、入札の在り方、不調をなくしていくことは大事なことだと思っていますけれども、こういった情報は皆さんのほうにも入っていますか。そして、またどういった課題があって、今後どのような内容で詰めていこうとされているのか、教えていただければと思います。

○委員長（段木和彦君） 土木部長。

○土木部長 今、伊藤委員が言ったとおり、最近ここ何日かの新聞でも夏季休工と大々的に出てはいるのですが、国が今やっている事業でモデルケースとしては、1年間ぐらいの工期を持った工事で夏場は避けていいと、宇都宮国道で発注しているのがモデルケースとなっているのですが、1工区、2工区を年間ぐらいの工期でやっておりまして、夏を避けた形で準備期間を含めてやってもらえたらいいのだけれどもとの形で出されていると。

この大きな長い期間の工事を今度千葉市で発注しようとした場合、どの程度の規模でやるのか、現場代理人の確保やそういった面でも休工をしなければいけないとか、いろいろな発注の規模感が大分違うので、どういった形でやっていくかなど、今後国から示されるそういった指針や指標のようなものがどう変わってくるかは少しあるのですけれども、夏場のこういった対策は必要不可欠だとは思っておりますので、今後そういった情報を注視しながら、千葉市としてもどういった形の対策がいいのか、なじむものはどういったものなのかは研究していかなければいけないと感じております。

以上でございます。

○委員長（段木和彦君） 伊藤委員。

○委員（伊藤康平君） ありがとうございます。いずれにせよ、1年を通じてといっても必ず暑い期間を何かで工事していかなければいけないわけですから、大きな工事ではない事業、金額ではないですけれども、要は千葉市だって橋の架け替え事業があったり、河川の改修があったりなど、どうしても夏場にやらなければいけない事業も出てくるでしょうから、そうすると、夜間工事が増えるようになってくると今度は労務費が上がってくるので、結果としてすごく財政的な負担が大きくなることにもなりかねないので、そうなってくると、いかに不調を減らし、円滑に仕事を取ってもらえるかになると思います。

そこで少し確認していきたいのですが、この間の議案の中にも入札の話、内容が出ておりましたけれども、不調をなくしていく意味合いでは非常に悩ましい部分があるのだと思いますけれども、そもそも低価格入札を防止するためにあるわけで、なおかつ、一方では公正取引委員会はそもそも価格を設定していること自体が違うと、あってはならない、自由競争の原理に反していますと言っています。総務省は、でも価格の安定化を図る上で最低制限価格をとのことで。ただ、どうしても外から見ると、金額が同額で入ってくると、この間の財政局の局長の答弁でもありましたけれども、あれだけ情報を公開してしまうと、自由競争と言いつつも価格の競争が生まれてこないと感じています。

そういった意味では、総合評価の中身をどうしていくのがこれから問われてくると思いますが、現在総合評価の評価点数はどういった基準に基づいて設定されて、令和6年度にどれぐらいの総合評価の入札を行ってきたのか、改めてお聞かせいただけますでしょうか。

○委員長（段木和彦君） 技術管理課長。

○技術管理課長 技術管理課でございます。

総合評価につきましては、対象額が3,500万円以上のものに対しまして原則実施することとしております。その中で、国の補正や緊急性が高いもの等を除外した中行っているところです。実際に令和6年度におきましては、全体392の一般競争入札のうち91件を実施しているところです。

○委員長（段木和彦君） 伊藤委員。

○委員（伊藤康平君） 結構な数をやっていると思いました。その中で、あまり突っ込んでいってもしようがないと思いますので、大きな視点の中で確認したいと思うのですが、やはり点数が、総合評価の点数についても長くやっていけば固定化してきて、自分の企業体質が分かってくるとだんだんこういったものも、あまり当てにならないと言えは語弊がありますが、公平な入札の部分では非常に健全度が下がってくる感じもするのですが、例えば、今やっている取組は大きく変えることができない難しいものがあるのであれば、そういう意味で総合評価の点数、評価の在り方自体を見直していくことも必要なのかと、それが変わるだけで全然私たちの応札する、入札する金額が変わってくるわけですから、必ずしも同じ金額になってくることはあり得ないと思います。

そういった意味では、他都市では、例えば、SDGsの認証資格を持つ、昔ISOがやはり

ましたけれども、やはり今は環境を考えていく意味でSDGsの認証を取っている事業者の点数の割合を高くするなど、障害者の雇用を増やしているところについても評価を上げていく。そうなってくると、要は企業間の状況が異なるわけですから、必ずしも金額だけではなくて、社会的貢献と環境に対する貢献の部分ですごく重く見ているという位置づけで入札にも取り組んでくると、金額のみならず会社自体の企業イメージも含めた評価につながってくると感じているのですが、どのように捉えられていらっしゃるのでしょうか、教えてください。

○委員長（段木和彦君） 技術管理課長。

○技術管理課長 技術管理課でございます。

総合評価におきましては、当然企業や配置技術者の成績評点の実績や、あと施工経験など企業の施工能力、こういうものを現在評価項目として入れております。また、災害防止への取組の状況や災害活動の実績、ボランティア活動の実績など、社会性、信頼性に対する評価項目なども設定しているところです。このようなものを行いながら、成績評定なども徐々に上がってきているところでございますが、当然設定した項目に対しまして徐々に配点が高くなっていく効果もございますので、社会情勢など進捗状況を見て、一定程度の中でまた見直しをしていくことは必要ではないかと考えております。

そういう中には、現在設定していない設定項目についての導入や、そういうことも研究する必要があるのではないかと考えているところです。

あと追加で、先ほどお答えできなかった入札不調の件でございますが、建設局におきましては、令和6年度で233件の工事の契約を行っているうち、43件の入札不調が発生しています。不調率といたしましては15.58%との状況でございます。当然入札不調がありますと再入札等がございますので、先ほどおっしゃられました平準化など、そういうものに影響することは認識しているところでございます。

以上でございます。

○委員長（段木和彦君） 伊藤委員。

○委員（伊藤康平君） お手数をおかけしました。ありがとうございます。15%が多いのか少ないのかは、なかなか人の感覚によっても異なるのですが、事業によっては計画にも影響してくるものになるので、やはりしっかりと進めていく必要はあると感じました。

話は少し戻りますけれども、先ほどの件で、要は、公平公正な入札制度を確立する視点だけではなくて、企業がどれだけ社会的貢献をしていくのかを今世の中が問うているわけであって、そこを国が進めているこういった環境に対するもの、特にSDGsに対する取組をどう各局が自分たちの事業の中に入れていって企業の皆さんにも進めていってもらえるか。

もっと言えば、建設業界はなかなか今若者が入ってこないと言われてはいますが、若者が活躍できる建設業界をどうつくっていくのか。そして、女性が活躍できる建設業界はどういったところなのかを、業界全体としてもやはり変わっていかないと、なかなか人が入ってこないというだけでは難しいと感じているので、そこは自治体としても事業を通じて進めていく必要があると思います。

しっかりと検討していただいて、公平公正で、そして社会的貢献が実る一つ一つの取組にしていただきたいと思います。

続いて、下水道関係です。固形燃料化については先ほどお話が少し触れられていましたので、私としてもずっと議会の中で取り組んできているものではあるのでおおむね理解はしたところ
です。汚泥の利用、地球環境に対してこの資源をどう活用していくのかは、先ほどのSDGs
の話ではないですけれども、これは直結していくものであって、資源をアップサイクルして新
たなものに転換していくことは、循環経済につながってくる問題でもあるので、しっかり進め
ていく課題だと感じています。

固形燃料をつくっている内容を細かく見ていくと、単純に燃料化、炭化をすれば製品として
変わるものではなくて、熱量であったり、そのあと、燃やした後の灰の量であったり、それ
によって使える用途はすごく制限されてくるのではないかと思いますけれども、本市の固形燃料
化しているものは、主にこういった成分で、こういった事業に燃料として提供しやすいもの
なのか、教えていただきたいと思います。

○委員長（段木和彦君） 下水道施設建設課長。

○下水道施設建設課長 下水道施設建設課、石黒です。よろしくお願いします。

今回の固形燃料についてなのですが、一応要求水準書の中で規格を決めておりまして、一応
それを守るような形で機種の選定や試運転等をやっていただいて、安定的に供給できるような
体制づくりをしていただくこととなっております。こちらの利用先なのですけれども、一応セ
メント工場と聞いております。細かいことは取引上の企業情報になりますので控えさせてい
ただきたいと思います。

以上でございます。

○委員長（段木和彦君） 伊藤委員。

○委員（伊藤康平君） 例えば、北谷津などの新清掃工場の燃料として使うのは、やはり難し
かったのですか。分かる範囲で教えていただければと思います。

○委員長（段木和彦君） 下水道施設建設課長。

○下水道施設建設課長 下水道施設建設課です。

確かに、私の記憶ですと使えなかったとの話を聞いております。

以上でございます。

○委員長（段木和彦君） 伊藤委員。

○委員（伊藤康平君） 詳細はまたあとで教えていただければと思います。できれば、こうい
った自分たちで出したものを新たな燃料に変えて、この間も託送で、各施設の電気代を安くす
るために使っていくという話がありましたけれども、こうやって自分たちで出したものを燃料
として清掃工場で使ってもらえたら、まさに循環していくわけです。こういった取組をや
りしっかりしていけばいいと思うので、今やっている固形燃料の成分がこういったものにな
って、どれぐらいの熱量が担保できるのか、場合によっては加工して熱量を上げていくこと
も必要になってくると思うので、これは今後の取組の中でしっかりやっていていただきたい
と感じています。

あともう一つは、今すごく注目を浴びているのが、汚泥から出るリンをどう抽出していく
のか。私が仕事でやっているときは輸入するリンがすごく安かったので、汚泥からリンを抽出
しても売り先がないとのことで結構頓挫してしまっているのですが、今社会情勢を見ると、2021

年からの価格からすると、今現在、コロナが一番高かったのですが、現在その当時から2倍ぐらい輸入すると費用がかかると言われています。そういった意味では、リンを多く、きちんとしっかりと活用していくことで千葉市の経済にも少なからず影響してくるのではないかと考えているのですが、リンの取組についても少し教えていただけますか。一時期、昔検討していたと思うのですが、現在どうなっているのか。令和6年度で何かやっているものがあれば教えていただければと思います。

○委員長（段木和彦君） 下水道経営課長。

○下水道経営課長 下水道経営課でございます。

リンにつきましては、やはり東京湾の富栄養化の要因の一つであると言われていまして、これを回収することは水質改善効果が当然期待できると思っています。また、回収したリンにつきましては、先ほど委員がおっしゃられたSDGsの観点や循環型農業の面で、付加価値の高い肥料原料と考えておりまして、現在導入可能性調査については検討を進めているところでございます。

現状ですと、やはりリン回収設備を新たに導入しなければいけないので、プラントメーカーや利用先となるJA、全農や、肥料メーカーなどのヒアリングをしております。その結果、やはりリン回収設備につきましては、近年の物価高騰の影響によりまして、建設費用や維持管理費用が大分上昇傾向にあります。あと販売価格につきましては、委員がおっしゃるとおり、当時、高騰する前よりも当然高くはなっているのですけれども、実際の輸入価格に比べて国内の取引価格が非常にまだ安価であります。当然この事業を進めるには安定的な流通や事業の継続性が求められることとなりますので、今後そういったものを踏まえまして、これを導入することによる下水道経営に対する影響など、そういったものを考えて導入時期などを検討しつつ慎重な判断をしていきたいと考えております。

以上でございます。

○委員長（段木和彦君） 伊藤委員。

○委員（伊藤康平君） ありがとうございます。確かにリンを抽出するのは、私も試験的に実験をやったのは、難しいと思うのですけれども、ただ、やはり今後のことを考えていくと、汚泥は宝の山と言われる人たちもたくさんいて、使えるものはたくさんあるので、こういったものを活用していくことは大事だと思っています。

コロナ禍に、例えば、千葉市の農業、酪農なども大変な状況になってしまって、これまで堆肥にしても肥料にしても輸入に頼っていた結果、この物価高騰に耐えられなくなってしまって辞めざるを得ない状況もあったと聞いています。そういった意味では、必ずしも外に売らなくても、先ほどから言っている、どう市内経済を回していくのか、出たものをどう市内の中で流通させていくのかを考えたときには、やはりリンを抽出することによって少なからず千葉市農業にも貢献できるものになってくるのではないかと思います。

ただ、原料となっているものから抽出するものによっては好き嫌いがあって、汚泥からのリンは使えませんなど、そういったこともあるので、そこは慎重に当然やっていかなければいけないと思うのですけれども、引き続きしっかりと検討していただいて、資源を有効に活用して市内経済に貢献していくことを建設局から発信していただきたいと思いますので、引き

続きの取組に期待したいと思います。

最後に、農業集落排水について聞きたいと思っています。農業集落排水についても、これまで会派としても個人としても確認させてもらいましたが、非常に人口規模がやはり少なく、計画人口が少ないので、それぞれ単独で処理場を持ちながら処分していくのは、多分最初から限界があったのではないかと感じています。

いずれにせよ溝渠に吸収していくことが利用者の皆さんにとっての負担も軽減できるので、しっかりと進めていっていただきたいと思っているのですが、令和6年で少しずつ進んできた農業集落排水の溝渠への切替えについて、簡単に一旦御説明いただけますでしょうか。

○委員長（段木和彦君） 下水道整備課污水対策担当課長。

○下水道整備課污水対策担当課長 下水道整備課でございます。

今お話がありました農業集落排水の公共下水道への再編に関してですけれども、順次令和4年度から事業を進めておりまして、令和7年、今年中に野呂地区の公共下水道への接続が開始されます。今着手しているところは、ほかにも更科地区と中野和泉地区がございますけれども、中野和泉地区が令和8年度、更科地区が令和9年度に公共下水道に接続を完了させる予定でございます。

今の状況は、以上でございます。

○委員長（段木和彦君） 伊藤委員。

○委員（伊藤康平君） 令和6年度は切替えをしているところがなかったとの解釈なのでしょうか。

○委員長（段木和彦君） 下水道整備課污水対策担当課長。

○下水道整備課污水対策担当課長 令和6年度は、今やっていた野呂地区などの工事を進めていたのですけれども、どこの地区の接続が終わったというのは、令和6年度にはまだなかった状況でございます。

○委員長（段木和彦君） 伊藤委員。

○委員（伊藤康平君） 分かりました。いよいよ切替えが始まったと承知しておきます。ただ、一方でこの切替えを進めていくにもまだすごくタイムスケジュールが長くて、今物価が大きく上昇したり、物価の変動が大きいので、実際に粛々と借りたお金を計画どおりに返済していったり切替えたほうがいいのかどうかは、随時見直していく必要があるのではないかと感じています。

だから、場合によっては先に償還してお金が返せるなら返してしまっって、切り替えていって、維持管理コストを削減していって、施設を新たなものにリニューアルして使っていくことも必要だと思いますけれども、再整備計画があまりにもロングランの計画なので、今回代表の中でも見直しをしていきますとおっしゃっていましたが、皆さんから見て、今の千葉市の農業集落排水の改善していかなければいけないポイントと、今後どのように再編をしていくことによって円滑に進めていけると考えているのか、ぜひお聞かせいただきたいと思います。

○委員長（段木和彦君） 残り10分です。下水道企画部長。

○下水道企画部長 農業集落排水事業ですけれども、もともとの事業設計が一般会計の補助金に依存した形でやっていくものになっております。そうした中で、今回公営企業会計を適用し

て財務状況等を見える化したところでございますが、やはり、改めて経営の厳しさ、そういう状況が明らかになったところは認識しております。

我々も、やはりそうした中で強い危機感を持って、当然事業を進めていかなければいけないので、効果がてきめんですぐ改善できるような何か手段があるかどうかと言われると、正直言ってございません。やはり、今中長期経営計画の見直しをすることもございますので、この辺の財務状況等をより分析した中での確な課題等を抽出して、よりどういう施策を検討していくべきか、作業を進めていきながら、きちんとした効果的な計画をつくっていきたいと思っております。

あと、当然社会情勢が少し不確定なところもございますので、本当に2年後、3年後、またどうなっているか分からない状況でもございますので、そこでの適宜の見直し、こういったところは常に検討させていただきたいと思っております。

以上でございます。

○委員長（段木和彦君） 伊藤委員。

○委員（伊藤康平君） ありがとうございます。最後に一点確認したいのは、やはり大事なものは、今切替えは進めているけれども当然施設は使い続けているわけであって、収益的収支比率が非常に低いのは問題だと。

多分、令和3年、2021年度では46.9%だったのが令和6年では44.1%で、だんだん年々下がってきていると、多分、もともとから少ないスタートでの事業だったのではないかと思うのですけれども、この間切り替えていく中において、この収益的収支比率をどのように捉えて運用されようとしているのか、最後にお聞かせいただければと思います。

○委員長（段木和彦君） 下水道企画部長。

○下水道企画部長 各種指標がいろいろと出ております。この辺の指標を経過的に当然見ていながら経営の状況を判断していきますので、やはり状況が悪化しているようであればいろいろな手を打っていかなければいけないと。基本的に人口密度が低いところでございますので、使用料を劇的に上げていくのは不可能でございます。やはり、支出を効率的にしていくという観点が最も適切な考え方だと思っておりますので、先ほどもお話ししております公共への接続等、こういったものを、進捗管理をしっかりとやりながら効果の早期の発現に努めていきたいと考えております。

以上でございます。

○委員長（段木和彦君） 伊藤委員。

○委員（伊藤康平君） ありがとうございます。無理を言ってもしょうがないですけれども、あまりにもいろいろな局が一般会計を当てにしている、一般会計からの繰入れが多くて、やらなければいけない事業が進められない重い現実がやはりあるので、今回見直しをしていく再編計画、その計画の内容についてもお金の出し入れと経営状況をしっかりと分析した上で進めていかないと、何となくまた一般会計への依存度が、高くはないけれども依存していかなければいけない現状は変わらないと思うので、そこはしっかりと、皆さんの事業自体も投資が多いので、事業の縮減と事業費の削減に努めていただければと思います。

以上です。

○委員長（段木和彦君） それでは、審査の都合により、暫時休憩といたします。
再開時間は午後１時でお願いいたします。

午後０時４分休憩

午後１時０分開議

○委員長（段木和彦君） 休憩前に引き続き分科会を開きます。

それでは、御質疑がある方は挙手をお願いいたします。向後委員。

○委員（向後保雄君） では、一問一答でお願いします。

まず、モノレールのところです。223ページ、都市モノレールインフラの維持管理です。

１つ目は、都市モノレールのインフラ施設の設備更新等で８億９,６００万円程度とありますけれども、この内容について詳細を教えてください。

○委員長（段木和彦君） 土木保全課長。

○土木保全課長 土木保全課でございます。

詳細な内容としましては、軌道げたや支柱の塗装塗り替えとしまして、約２億２,９００円でございます。また、車両の進行方向を変えます分岐器と言われているものですが、そちらの更新等につきましては約４億１,５００万円でございます。また、停留所の改修としましても約１億８,８００万円、あとエレベーターやエスカレーターなどの修繕としまして約６,４００万円の内容になってございます。

○委員長（段木和彦君） 向後委員。

○委員（向後保雄君） 細かくありがとうございます。軌道と支柱の塗装は、前に５年計画と聞いたことがありますけれども、軌道と支柱の塗装で、今回決算が２億３,０００万円ぐらいなのですか。そうすると、この５倍が毎計画でかかると考えるのですか。１０億円程度ですか。大体一回りするのにどれぐらいかかるのですか。

○委員長（段木和彦君） 土木保全課長。

○土木保全課長 ５年とは、まず点検を５年に一度やっております、塗装につきましては、まだ一連で開業当時からずっと進めております。現在７３％の部分の塗装が終わっているところでございまして、５年に１回よりはまだ続けているところでございます。

○委員長（段木和彦君） 向後委員。

○委員（向後保雄君） 分かりました。そうすると、まだ終わっていないからどのぐらいかかるか分からないのしょうけれども、塗装には今までのトータルでどれぐらいかかっているのですか。

○委員長（段木和彦君） 土木部長。

○土木部長 すみません、塗装のこれまでの費用の合計は今手元にはないので、後ほど集計してお持ちさせていただければと思います。先ほどの５年ごとの話は、モノレールのインフラ部分修繕計画を立てておりまして、それを５年ごとに見直して、今後どのぐらいの費用をかけて塗装なり、修繕なりをしていくかで、委員のほうには多分５年ごとと入っているかと思いますが、

それだから5年で終わるわけではなくて、継続してずっとやってかなければならないものですので、そういう御理解をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

○委員長（段木和彦君） 向後委員。

○委員（向後保雄君） そうすると、まだ集計していないので分からないとのことで、あとで集計をもらいたいですけれども、相当な金額がかかることだと思うので、これは道路整備の意味で、軌道は道路だとの認識でやっていると聞いているので、それは別に僕はモノレールは否定していません。やはり市民の足として今活躍してもらっているのも、これからもこれは市としても支援していかなければいけないとは思っていますので、しっかりと安全第一で、そこだけはよろしくお願いいたしますと思います。

それでは、2つ目、千葉都市モノレールの施設の維持管理に関する協定書に基づく負担金が2億2,200万円程度なのですけれども、これについて、支払った負担金の内容を少し教えてもらえますか。

○委員長（段木和彦君） 土木保全課長。

○土木保全課長 土木保全課です。

支払った内容につきましては、まず市役所駅前などの自由通路がございますけれども、そちらにかかる修繕費等としまして約1億900万円となっています。また、千葉駅などの改札外におけるエレベーター等の点検や軽微の修繕費としまして約1億200万円でございます。また、市役所などの自由通路における清掃費として約900万円と電気料金、あと水道料金としまして約300万円を千葉都市モノレールのほうに支払っているものでございます。

○委員長（段木和彦君） 向後委員。

○委員（向後保雄君） ありがとうございます。理解しましたけれども、今、自由通路ですか、市民センターへ入っていくところの2階をつなげたでしょう。自由通路というのはあれのことですか。

○委員長（段木和彦君） 土木保全課長。

○土木保全課長 そこは市の庁舎の部分でございまして、自由通路はエスカレーターと反対側に、コミュニティーセンターのほうにエスカレーターがございますが、そちらの行き来をするための通路でございます。

○委員長（段木和彦君） 向後委員。

○委員（向後保雄君） 分かりました。私はどこなのかと思ったので、理解しました。

そうしたら、モノレールについては以上で結構です。

それから、次、229ページの排水施設の整備について幾つか聞きたいです。

まず、宇那谷町他の排水施設新設工事他に1億六千何がしかとうたってありますけれども、この詳しい内容、どういう内容なのかを教えてくださいたいのと、もしこれが施設の浸水リスクの軽減を見据えているものなのかどうか、もしそうだとしたら期待できる効果、そこを教えてください。

○委員長（段木和彦君） 雨水対策課長。

○雨水対策課長 雨水対策課でございます。

こちらにつきまして、工事個所につきましては3か所を決算に計上しております。そのうち2か所につきましてが浸水対策工事となっております、1か所は護岸の復旧工事が入っております。浸水対策につきましては、花見川区の宇那谷町、宇那谷2号排水路の拡幅工事で120メートル、もう一つが緑区平山町の雨水新設工事です。こちらで106メートル。最後に護岸の復旧なのですけれども、こちらが緑区板倉町の浦田川で約33メートルを行っております。

浸水対策の効果につきましては、それぞれの上流部における浸水被害の軽減につながるものと考えております。

以上でございます。

○委員長（段木和彦君） 向後委員。

○委員（向後保雄君） 御丁寧にありがとうございました。浸水対策でいうと、2か所が浸水対策工事とのことなのですけれども、今、雨水管の処理能力は、ゲリラ豪雨など、一時期、時間50ミリや100ミリという話がありましたけれども、今どれぐらいの処理能力があるのですか。

○委員長（段木和彦君） 雨水対策課長。

○雨水対策課長 宇那谷のほうに関しましては、上流部の勝田川の改修工事に引き続きつなげておりますので、3年確率の降雨に対して対応できるものとなっております。平山に関しましては、こちらのほうは一般地区になるので、50ミリ対応で対応しておる次第でございます。

以上でございます。

○委員長（段木和彦君） 向後委員。

○委員（向後保雄君） 分かりました。これは線状降水帯だ何だと、今予測できないことが多いので、浸水対策は非常に重要だと思いますので、想定外のないようにぜひ対応していただければと思います。

そして、次に施設管理で少し聞きたいのですけれども、5億3,000万円ほどの、この内容について少し教えてください。

○委員長（段木和彦君） 下水道維持課長。

○下水道維持課長 下水道維持課でございます。

既存の排水施設、水路及び調整池を対象にいたしまして、修繕や清掃などの維持補修委託が年間65件、管理用地の草刈り業務が約65万平方メートル、そして調整池などの点検業務を合わせて約2億1,800万円となっております。また、工事費につきましては、高田排水路のしゅんせつで、延長が233メートルや、草野水路ほかのフェンスの改修で延長が1,029メートルなど、約2億1,400万円となっております。このほか、葭川・生実川排水機場や海岸保全施設の管理業務が1億300万円となっております。

以上です。

○委員長（段木和彦君） 向後委員。

○委員（向後保雄君） ありがとうございます。最後に、このほかで出た葭川と、それから生実川の排水機場の、場所は大体分かるのですけれども、もし排水機が動かないなど、そういうことが起こった場合の対策は考えているのでしょうか。

○委員長（段木和彦君） 下水道維持課長。

○下水道維持課長 下水道維持課です。

そのようなことが起こらないようにと毎月点検、試運転、そして補修、その辺の設備の確認等をさせていただいて、万が一それが動かなくなるとなりますと、今回排水機場ですので、高潮など、そういったものがなければ、ある意味その場で何とか修繕、補修等をして直すところで、そこがもし重なったときについては、やはりそれなりの被害が発生することで考えております。

以上です。

○委員長（段木和彦君） 向後委員。

○委員（向後保雄君） そのために点検しているとのことなので、そういう想定外はないと思うのですが、もしあったときのことも考えなければいけないと思うところであります。本当に想定外でしたでは済まないこともあるので、ぜひそれについてはよろしくお願いしますと希望を言っておきたいと思います。

以上でございます。ありがとうございました。

○委員長（段木和彦君） 小松崎委員。

○委員（小松崎文嘉君） 少し大きなテーマになるのですが、一問一答でお願いします。

つい最近まで八街市の事故があつて、歩道の安全が言われていまして、最近になっては管渠の整備で、埼玉県の事故を受けていろいろなことがあると思います。ゲリラ豪雨や線状降水帯の話、先ほどから皆さんで出ていますけれども、この辺の予算の、国から千葉市への補助率や補助など、そういったところの動きはどうなっているのか、教えていただければと思います。

○委員長（段木和彦君） 土木部長。

○土木部長 交通安全対策として八街市の事故を受けて、そのときには国が緊急対策として点検をして実施しますということで、補正予算を特別に組みました。それを活用して千葉市でも対策を行ったところでございます。

ただ、交通安全対策としての補助金や交付金のメニューについては、おおむね一定して国が特別そこで予算を以後増額したことはなくて、ある一定程度の額で推移しております。千葉市においてもそれを活用した中で、一定程度補助金、交付金を活用して作業を進めておりますので、八街市の事故以降極端に増えたということではなくて、補正予算による対応であった状況でございます。

○委員長（段木和彦君） 道路計画課長。

○道路計画課長 補助金全体で言いますと、令和2年度から令和6年度にかけまして、事業費として45億円から55億円ぐらいの間で推移して、全体で見ると若干増えてきている状況でございます。

国費の変動なのではございますけれども、額としては見えてこない部分はあるのですが、先ほど部長からも話があつたとおり、滋賀県の大津市でもともと事故があつて、その後令和2年度からは通学路などの安全施設に関する交付金で、内示率が全体的に前年度50%ぐらいだったものが、それ以降80%ぐらいになっているので、そういったトレンドはあると考えております。

○委員長（段木和彦君） ほかに、下水道のほうはよろしいですか。下水道経営課長。

○下水道経営課長 下水道における浸水対策についてなのですが、やはりゲリラ豪雨、集中豪雨が叫ばれまして、市としては平成29年度に雨水管理総合計画をつくった。要は重点地

区を重点的に整備する計画をつくりました。その前までについては、これは国費よりも市全体の事業費なのですけれども、大体10億円程度の事業費だったものが、この計画をつくって重点的に整備をしていこうとなりまして、15億円ぐらいに増えたところです。

直近では、令和6年度では決算でいきますと22億円の事業費を投資しているので、国費がそのうちのどのくらい入っているかは、今お答えできないのですけれども、ただ、国としてはそういったゲリラ豪雨の現状を踏まえて、令和3年度以降、3年度、4年度に浸水対策で個別補助事業を設けております。下水道床上浸水対策事業や、あと大規模雨水処理施設整備事業という一定程度被害を受けた地区については、こういった個別補助事業として優先的に配分することも国のほうで打ち出していますので、この事業費を活用して現在整備しているところでございます。

以上でございます。

○委員長（段木和彦君） 土木部長。

○土木部長 先ほど国費の補助率でお答えしていなかったのですが、10分の5.5で、55%通学路の安全対策などには頂いているところでございます。

○委員長（段木和彦君） ほかはよろしいでしょうか。小松崎委員。

○委員（小松崎文嘉君） すみません、今の最後の55%があまり変化はない55%でいいのですよね。その上でお話をさせていただきます。私も考えてみたらもう19年も議員をやっている、その頃を考えてみたら1時間30ミリの雨でも十分対策していたのですけれども、19年たって50ミリでも足りない、どちらかというと66ミリぐらいを最低最悪のときは想定しなければならない。もちろん100ミリ、80ミリもあるかもしれませんが、基本的には今のところ、この20年で言えば六十六、七ミリが一番大きな雨だと思います。

そういったことを想定していく上で、やはり歩道の安全の問題、それからこれから出てくるであろう管渠の下水道管の問題、そういったことを、予算が変わっていないとすると価格がかなり上がっていますので、そういった側面のはやらなければならないと思います。先ほど亀井委員から話がありましたけれども、ゾーン30でいうと非常に効果があって、鉄のパイプがあると軽自動車が入り込んだのですけれども、軽自動車がめっちゃめっちゃになって人には何も害がなかった、すごく便利な反面、ポールが増え過ぎて車が通行できないのかえって危ないと言う人もいます。

かといって、やはりポールがあったほうが安全だと思いますので、そういったところで最近残念なところとして出ているのが、もともとあった古いポール、横断歩道の青い三角がついているやつなど、あと入り口にこれからゾーン30ですと書いてあって、これは危ないというか、トラックなどが曲がってきたときに今まで思いもしなかったところにあるので、そういう少し不便だとの声があるのですけれども、そのようなのは逆に当局のほうに来たりはしているのでしょうか。

○委員長（段木和彦君） 土木保全課長。

○土木保全課長 土木保全課です。

ゾーン30の規制の看板につきましては、エリアをまず設定しまして、その入り口部分に設置をしているものなのですけれども、規制と併せまして、県警が設置しているものでございます。

が、現地を確認しながら対応したいと思います。

○委員長（段木和彦君） 小松崎委員。

○委員（小松崎文嘉君） やってくれといってすぐに直すわけにはいかないの、この4月になると2年目ぐらいになるので、前のあるから要らなかったり、今のができたので前のは要らないと、どこが大事か区別がついてくるので、そのときにはいろいろ応じていただきたいのと、あと、赤いポールがよくあります。ふにゃふにゃとなるやつと、プラスチックといっても硬質プラスチック、その単価は幾らぐらいで、10年ぐらい前と5年前と今だと価格の変化はあるのかどうか、お聞かせください。

○委員長（段木和彦君） 土木保全課長。

○土木保全課長 ラバーポールコーンでございますけれども、柔らかいもので材料費としまして約2万円程度と認識しております。硬いものにつきましては柔らかいものよりは安いと認識しております。10年前からの単価につきましては、申し訳ございません、今は分かりかねるところでございます。

○委員長（段木和彦君） 小松崎委員。

○委員（小松崎文嘉君） 幾らか分からないので、後で。硬質なものは、大体2万円が柔らかいやつだとすると、1万8,000円ぐらいなのか1万円ぐらいなのか5,000円ぐらいなのか、その辺が後で分かったら教えていただければ幸いです。

何でこんなことを言っているかという、赤いポールは、もともと千葉市ではあまり使っていなかったのですけれども、四街道市や佐倉市で割といろいろなところに、狭めるためにやっていたのでしょう、大分使うようになっていただいたので、多くなると安くなるのかと思ったからそんなこともないのかと。

あと、今は価格高騰があったりするので、うまく活用していただいて、なるべく、規制するとどうしても車に傷がつくなどと文句を言われてしまうので、ラバーポールであれば差支えないと思います。かといって高価なところなので考えながら、またいろいろな要望がいろいろな議員からもあるだろうし、町内会からもあると思うので、そういった部分で安く仕入れられないか検討しながらやっていただければと。

以上です。

○委員長（段木和彦君） ほかよろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（段木和彦君） 御質疑等がなければ、以上で建設局所管の審査を終わります。

建設局の方々は御退室願います。御苦労さまでした。

〔建設局退室、水道局入室〕

水道局所管審査

○委員長（段木和彦君） 次に、水道局所管の令和6年度決算議案の審査を行います。

それでは、当局の説明をお願いいたします。水道局長。

○建設局次長（水道局長併任） 水道局でございます。よろしくをお願いいたします。着座にて失礼いたします。

令和6年度水道事業会計の決算につきまして、水道局次長より御説明いたします。なお、事業の概況につきましては、17日に行われました総括説明におきまして既に説明しておりますので省略させていただきます。お願いします。

○委員長（段木和彦君） 水道局次長。

○水道局次長 水道局次長の神田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。座って説明させていただきます。

別冊の水道事業会計決算書をお願いいたします。

まず、決算書の2ページ、3ページを見開きで御覧ください。

表の金額につきましては、1,000円未満四捨五入で御説明いたします。

初めに、収益的収入及び支出ですが、収入は第1款・水道事業収益の決算額21億8,841万2,000円で、予算額に比べ7,648万1,000円の減になっております。減額の主なものですが、第1款・営業収益におきまして、水道使用量が見込みを下回ったことや、第2項・営業外収益において委託料の減などに伴い一般会計からの補助金が減になったこと、また消費税及び地方消費税還付金が減になったことなどによるものでございます。

次に、支出は、第1款・水道事業費の決算額21億3,129万4,000円で、不用額は6,959万円となっております。不用額の主なものですが、第1項・営業費用におきまして、入札差金等による配水及び給水費の修繕費が減となったことや、建設改良工事の繰越しにより減価償却費が減となったことなどによるものでございます。

続きまして、4ページ、5ページを見開きで御覧ください。

次に、資本的収入及び支出ですが、収入は第1款・資本的収入の決算額13億1,793万9,000円で、予算額に比べ3億7,550万6,000円の減になっております。減額の主なものですが、第1項企業債が事業の繰越しなどに伴い減になったものでございます。

次に、支出は、第1款・資本的支出の決算額18億29万8,000円で、翌年度繰越額2億6,000万円を除きました不用額は1億4,736万5,000円となっております。不用額の主なものですが、第1項・建設改良費が工事請負費や委託料の契約差金などにより減になったものでございます。

この結果、表の下、欄外に記載しております資本的収入額が資本的支出額に不足する額4億8,235万9,000円は、当年度分損益勘定留保資金などで補填いたしました。

最後に、37ページをお願いいたします。

ページの下のほうにございます注記の4、その他、(1)貸倒引当金の取崩しについてですが、当年度におきまして未収金16万6,000円を不納欠損処理することとなったため、貸倒引当金を15万8,000円取り崩しました。これは、水道使用量の未収金のうち、催告や納付交渉に務めたものの、消滅時効に係る時効期間が満了したため、千葉県債権管理条例に基づき債権放棄を行ったことによるものでございます。

説明は、以上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○委員長（段木和彦君） それでは、御質疑等がありましたらお願いいたします。佐々木委員。

○委員（佐々木友樹君） 一問一答でお願いいたします。

水道事業会計の報告書15ページにあります経営状況についての中で、営業損益の赤字が7.6%で約6,600万円拡大したということです。前年度、令和5年度決算のときも約5,290万円

ですか、6.3%の赤字でありました。一般会計補助金についても増額になっておりますけれども、基本的なところをまずお示しいただきたいのですが、今後もこの営業損益は赤字が出るのかと、この間の状況についても併せてお示しいただけますでしょうか。

○委員長（段木和彦君） 水道総務課長。

○水道総務課長 水道総務課です。

平成6年度は、職員構成の変更に伴う退職給付費や人事院勧告による給与改定で人件費が増額したことなどによりまして、前年度より営業損失が6,636万7,000円拡大しましたが、基本的に市営水道は料金回収率が低く、経営的に不利な地理的条件の地域に給水しているため、給水収益のみでは営業費用の半分程度しか賄えないことから、今後も営業損失の発生は避けられないと考えております。

以上でございます。

○委員長（段木和彦君） 佐々木委員。

○委員（佐々木友樹君） 令和6年度も料金回収率が48%で、前年度よりもやはり低くなっている状況は十分理解しておりますが、一般会計補助金や出資金の改善に向けて、今後どのように行っていくのでしょうか。

○委員長（段木和彦君） 水道総務課長。

○水道総務課長 水道総務課です。

赤字補填の一般会計補助金や一般会計出資金の改善につきましては、所有する未活用水源を活用した長柄浄水場への第三者委託により、原水及び浄水費費用の削減を図りたいと考えております。

以上でございます。

○委員長（段木和彦君） 佐々木委員。

○委員（佐々木友樹君） もともと原因になっているのは、私どもが改善を求めています給水原価、供給単価の差を解消するところの千葉県との協議は今どういう段階なのかをお聞きたいと思います。あわせて、水道料金の改定が県のほうで行われることで、千葉市水道への影響など、そういったものは現時点でどう捉えているか、お示してください。

○委員長（段木和彦君） 水道事業事務所長。

○水道事業事務所長 水道事業事務所です。

まずは、千葉県との協議についてお答えいたします。受水単価については毎年度県企業局と協議しておりますが、これまで県企業局は県営水道の料金の改定がない限り受水単価は改定しないと回答してきており、また、令和8年度は県営水道が値上げを検討しているため、受水単価はむしろ値上げされるのではないかと危惧しております。

以上でございます。

○委員長（段木和彦君） 水道局次長。

○水道局次長 県営水道の水道料金改定に対する市営水道の現時点での影響についてですが、市営水道は浄水場を所有しておりませんので、利用者に供給する水の約9割を県営水道から買っております。その買う水の料金、受水費につきましては、県営水道が料金改定を行いますと、当然その受水費も値上げが予想されますので、そういたしますと、今、一般会計から繰出金を

頂いておりますけれども、従来と同程度の繰入金を繰り入れたとしても市営水道が料金改定を行わないままでは収支のバランスが崩れまして赤字が発生すると考えております。

また、市営水道は、これまで市民負担の公平性の観点から、市域の大部分を給水しておりますが、県営水道と水道料金を同一にしておりますので、市営水道が県営水道と同じ料金改定を行わない場合は、これまた市民負担の公平性が維持できなくなるとも考えております。

以上です。

○委員長（段木和彦君） 佐々木委員。

○委員（佐々木友樹君） その上でなのですが、県の水道事業との統合の話も今、現知事が市長のときには水道事業の統合、広域連携も最重要課題で、議会で答弁しているわけです。現状、統合の話は一部外房地域のほうはやられることもありましたが、実際にこちらの千葉市水道との関係は話としてはのっていないのか、交渉中なのか、その辺りもお示しいただけますか。

○委員長（段木和彦君） 水道局次長。

○水道局次長 県営水道との統合につきましては、今、市営水道の給水区域が言ってみれば採算地域でございますので、なかなか統合に対するハードルが県営水道は高いようでございますので、取りあえず現時点では昨年11月に県市連携推進会議で合意いたしました長柄浄水場を活用しまして、市営水道がまだ所有しております活用できていない未活用水源を活用して、長柄浄水場に第三者委託の形で、言ってみれば浄水を確保して、それで水を供給してもらうということで、県の出来上がった水を買うのではなくて、長柄浄水場を借りて委託して給水していただく。

そういう形でやれば、県につきましても長柄浄水場はリーディングケースで、九十九里町の地域と南房総市の地域と県営水道が、用水供給事業体の形で令和8年4月から統合することが一応決まっておりますので、県の施設となる予定の長柄浄水場から給水すれば、長柄浄水場の稼働率が今非常に低いものですから、その稼働率が上がるメリットは県のほうにもございます。市営水道は今申し上げたような未活用の水源が使えるようになるメリットもありますので、そうすると、老朽化がかなり進んでおります土気の浄水場、これも半分ぐらい地下水を使っておりますけれども、長柄浄水場からの第三者委託による地下水を少し今よりも増やしてもらえば廃止することができるメリットもあります。

そういう、お互いにメリットがある方策を今実際に実現に向けて詳細を協議している状況でございます。

以上です。

○委員長（段木和彦君） 佐々木委員。

○委員（佐々木友樹君） 今、次長がおっしゃられたようなことを行うことによって、経営の改善はどうなるのでしょうか。

○委員長（段木和彦君） 水道局次長。

○水道局次長 現在受水費につきましては、県から買う単価が基本料金と使用料を合わせて税抜きで156円です。それを第三者委託に切り替えたときに、まだこれは県と交渉中でございますけれども、今の156円は言ってみれば、それは県が持っている水利権代も全部含めた金額で

すので、それよりも千葉市が持っている水源を使えばもう少し料金を安くできないかとずっと協議しておりますので、それで受水費も下げられれば水道事業の支出も今よりも削減できると、そういう形で経営改善ができないかと考えております。

○委員長（段木和彦君） 佐々木委員。

○委員（佐々木友樹君） 長期にかかる問題でもありますが、水はやはり必要な事業なのでありますが、かなり水利権にもともと大規模な投資をしてきた結果も反映されていると思うので、やはりこの部分については、これまでもほかの会派の皆さんも求めている水道事業の統合を本格的にやらないとならないのではないかとということだけは指摘させていただきたいと思います。以上です。

○委員長（段木和彦君） ほかにございますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（段木和彦君） それでは、御質疑等がなければ、以上で水道局所管の審査を終わります。

水道局の方々は御退室願います。御苦労さまでした。ありがとうございました。

〔水道局退室〕

指摘要望事項の協議

○委員長（段木和彦君） それでは、建設局及び水道局所管について指摘要望事項の有無、またある場合はその項目について御意見をお願いいたします。

初めに、建設局についてはいかがでしょうか。（「スマートインター」と呼ぶ者あり）スマートインターの件は出ていました。これから進めていかなければいけない事業かとは思っていますので。よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（段木和彦君） では、そういったことで、スマートインターを中心に考えてまいります。

次に、水道局についてはいかがでしょうか。佐々木委員。

○委員（佐々木友樹君） 統合の話はずっとほかの皆さんからも出されていて、水道のもともとの原水を霞ヶ浦など房総導水路、これは私どもは反対してきた経過はあるので、ずっと言い続けてきて、統合の部分では一致できる点もありますので。

○委員長（段木和彦君） では、水道局はなしということで。では、あとはすみませんが、正副に一任していただいてよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（段木和彦君） ありがとうございます。

それでは、以上で都市建設分科会を終了させていただきます。

皆様、お疲れさまでございました。

午後 1 時 41 分散会